一般社団法人日本地球惑星科学連合
平成 22 年度 第 4 回理事会　資料

開催日時　　平成２２年７月２３日（金）
午後３時００分から午後６時００分

開催場所　　東京大学理学部１号館８階７１０号室
（東京都文京区本郷７－３－１）

平 成 ２２年度 第４回 理 事 会 次 第

１．開　　会

２．報 告 事 項

1. 情勢
2. 2010 年大会総括
3. 経営企画会議の構成
4. 環境災害対応委員会から報告
5. その他

３．審 議 事 項

第　1号議案　　今後の方針
　　1-1　連合中期的戦略展望（～2015まで）
　　1-2　2010-2011年度事業計画および数値目標
　　1-3　事務局体制強化について
　　1-4　理事の役割分担について
　　1-5　タスクフォースの設置
第　2号議案　　来年度大会にむけて
　　2-1　大会運営体制
　　2-2　プログラム編成体制
第　3号議案　　整備委員会解散の件
第　4号議案　　システム開発費用残金支払いの件
第　5号議案　　各委員会委員選任の件
第　6号議案　　拡大理事会定義の件
第　7号議案　　委員会の構成について
第　8号議案　　大会時の会員登録の際のアンケートについて
第　9号議案　　男女共同学協会連絡会要望について
　　その他

４．閉　　会

（資料）

1.	報告事項・審議事項詳細	P1-3
2-1.	2010 年大会概要	P5
2-2.	大会登録状況（2005-2010）	P6-7
2-3.	大会総合案内来場者数	P9
2-4.	パブリック参加者内訳	P10
2-5.	本部大会総括	P11-12
2-6.	2010 会場係アンケート.	P13-18
3.	環境・災害対応委員会議事録_100528	P19-20
4-1.	一般正味財産増減計算書（第 3 期見込）.	P21
4-2.	財務関連メモ.	P23-24
4-3.	消費税について	P25
4-4.	大会経費見直し案	P26
5.	システム残件について	P27
6.	男女共同参画学協会連絡会要望案	P29-31
7.	委員会の構成について（教育問題検討委員会からのお願い）	P33
8.	名簿	P35-46
別添 1.	定款（2010 年 5 月改正版）	
2.	法人運営基本規程	
3.	法人運営基本規則	
4.	各種委員会規則	
5.	選挙管理委員会規則	
6.	代議員選挙規則	
7.	代議員選挙実施細則	
8.	役員選挙規則	
9.	役員選挙実施細則	
10.	役員候補者推薦委員会規則	

報 告 事 項

1. 情勢

2. 2010 年大会総括

2-1.　参加数、セッション数、ブース数など数値結果
2-2.　財政総括
2-3.　実務実行体制上の問題点
　(1)　受付業務の混乱
　(2)　プログラム編成総括
　(3)　対外広報の総括
　(4)　その他、参加者、会員からの声

3. 経営企画会議の構成

会長、副会長、総務、財務、広報、経営企画、国際、事務局担当理事、理事 10 名、
+事務局長　合計 11 名

4. 環境災害対応委員会から報告　（松本理事）

5. その他

審 議 事 項

第 1 号議案　　今後の方針

1-1.　連合中期的戦略展望（～2015まで）

1-1-1.　地球惑星科学における国際的国内的「高い峰と広い裾野」を包括するコミュニティーを実現する。

1-1-2.　欧米と並びたつ発信力と交流力を持つコミュニティーを実現する。

1-1-3.　社会に広く根を張る影響力あるコミュニティーを実現する。

1-2.　2010-2011年度事業計画

1-2-1.　事業計画（報告・総会決定参照）

1-2-2.　数値目標(素案)
　(1)　大会国際化の一層の推進　目標35%国際セッションの実現：７０／２００？
　(2)　２００セッションの実現
　(3)　大会参加者７０００名（外国から１０００名）
　(4)　大会参加者７０００名（外国から１０００名）
　(5)　会員１０，０００人
　(6)　１M／年アクセスHP
　(7)　若年層（高校生、学部生）２０００名（大会参加、および準会員）
　(8)　エグセビッションの大幅拡充
　(9)　財政基盤（事業１．５億？規模）の方針確立

1-2-3.　事務局体制強化について（報告・審議）

(1)　これまでの経過、改革の必要性
(2)　新事務局体制について、
(3)　常勤事務局長の設置、諸処事項、権限。
(4)　事務局担当理事の設置、諸処事項。
(5)　新事務局構成、諸処事項。とくに国際、広報実務の強化について。
(6)　新事務局の人件費予算、および給与決定プロセスについて。
(7)　事務局長人事について。

1-2-4.　理事の役割分担について

1. 経営企画会議

(1)　会長：全般、学術会議、理工系学会、国際など対外対応、ユニオンボード
(2)　副会長：大谷：ジャーナル、国際セッション
(3)　濵野：大会運営、広報、普及、教育、キャリアパス
(4)　津田：加盟学協会対応、大学問題対応
(5)　総務：大村：日常業務：連合運営実務監督／定款、細則管理、会員管理、
(6)　財務：西：日常業務：財政管理
(7)　広報：田近：日常業務：HP広報、ニュース配信、JGL、twitter, facebook配信管理
(8)　国際：石渡：日常業務：国際対応（EGU, AOGS,国際セッションとりまとめ）
(9)　事務局担当：川幡：事務局業務把握、決済
(10)　企画担当：中村：戦略的企画提案

2.理事　（提案・議論）

(1)　情報システム担当：古村：大会登録、会員登録、HPシステム構築など、JCOM交渉
(2)　大会企画担当：高橋：ユニオン大会企画立案、実行
(3)　ジャーナル担当：小口：ジャーナル発行準備担当、学術出版委員会担当
(4)　国際学術担当：ウオーレス：欧州地域対応
(5)　顕彰制度検討担当：岩森
(6)　災害対応：松本
(7)　男女共同参画：富樫
(8)　キャリアパス：佐藤
(9)　教育問題、畠山

1-2-5.　タスクフォースの設置

(1)　国際連携タスクフォース／国際戦略の充実：／石渡ほか、国際委員会、３役ほか理事希望者、公募
(2)　ジャーナルタスクフォース／発行準備／大谷副会長ほか、学術出版委員会、３役ほか理事希望者、公募
(3)　大会企画タスクフォース／大会の充実：高橋ほか、プログラム編成会議、３役ほか理事代議員希望者、公募
(4)　広報タスクフォース／広報の充実：田近ほか、広報委員会、３役ほか理事代議員希望者、公募
(5)　財政基盤強化タスクフォース／財政戦略：西ほか、経営企画会議、理事代議員希望者、公募
(6)　顕彰制度タスクフォース／岩森ほか、経営企画会議、理事、代議員希望者、ほか
(7)　その他

第 2号議案　　来年度大会にむけて

2-1.　大会運営体制
大会委員長：学協会長会議議長（１１月交代）、冠、懇親会あいさつ
大会運営委員長：副会長濵野、運営実務総責任者
運営委員会副３頭体制、大会企画（高橋理事）、プログラム委員長（井出）、会場運営委員長（岩上）

2-2.　プログラム編成体制
2-2-1.　ユニオンセッションは一般募集を含めて５～６件採用。
一般公募と共にセクションボードからも提案。

採用候補はユニオンボードコメント参考。
2-2-2.　セクションからのプログラム委員、委員長、副委員長、理事会指名委員（広報、国際、教育、経営企画会議）から構成される
プログラム編成会議の強化をはかる。「参加者から見通し」のよいセッション構成をはかるための調整権限を持たせる
（例：セッション統合を条件として採用）。

2-2-3.　プログラム委員長ローテェーション性の採用。
これまで固体系-大気海洋系と来たので、この先は宇宙惑星―人間圏―地球生命とする。
今年度副委員長は宇宙惑星系から。
依頼済み。セクション登録数に応じたローテーション。

第 3号議案　　整備委員会解散の件　（濵野理事）

第 4号議案　　システム開発費用残金支払いの件　（古村理事）

第 5号議案　　各委員会委員選任の件

第 6号議案　　拡大理事会定義の件

第 7号議案　　委員会の構成について　（畠山理事提案）

第 8号議案　　大会時の会員登録の際のアンケートについて　（富樫理事）

第 9号議案　　男女共同学協会連絡会要望について　（富樫理事）

その他

2010 年大会概要

■開催：2010 年 5 月 23 日(日)～28 日(金)6 日間
　　幕張メッセ　国際会議場

■主催：一般社団法人日本地球惑星科学連合

■団体会員（学協会）：48 学協会

日本宇宙生物科学会
日本応用地質学会
日本温泉科学会
日本海洋学会
特定非営利活動法人
　日本火山学会
形の科学会
日本活断層学会
社団法人　日本気象学会
日本鉱物科学会
日本国際地図学会
日本古生物学会
日本沙漠学会
資源地質学会
社団法人　日本地震学会
日本情報地質学会
日本水文科学会
水文・水資源学会
生態工学会
生命の起原および進化学会
石油技術協会
社団法人　日本雪氷学会
日本測地学会
大気化学研究会
日本堆積学会
日本第四紀学会
日本地学教育学会
地学団体研究会
一般社団法人
　日本地下水学会
日本地球化学会
地球電磁気・
　地球惑星圏学会
日本地形学連合
日本地質学会
日本地熱学会
地理科学学会
社団法人　日本地理学会
日本地理教育学会
地理教育研究会
一般社団法人
　地理情報システム学会
社団法人　東京地学協会
東北地理学会
土壌物理学会
日本粘土学会
日本農業気象学会
社団法人 物理探査学会
日本陸水学会
陸水物理研究会
社団法人
　日本リモートセンシング学会
日本惑星科学会

■協賛：日本サンゴ礁学会、日本大気電気学会、日本高圧力学会、日本天文学会

■後援：45 団体

日本学術会議
文部科学省
国土交通省 国土地理院
気象庁 気象研究所
気象庁 地磁気観測所
海上保安庁 海洋情報部
北海道立地質研究所
宇宙航空研究開発機構
海洋研究開発機構
科学技術振興機構 日本科学未来館
建築研究所
国立科学博物館
国立環境研究所
産業技術総合研究所
情報通信研究機構
森林総合研究所
石油天然ガス・金属鉱物資源機構
土木研究所
日本原子力研究開発機構
農業環境技術研究所
農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所
物質・材料研究機構
防災科学技術研究所
理化学研究所
国立教育政策研究所
高エネルギー加速器研究機構
自然科学研究機構 国立天文台
情報・システム研究機構 国立極地研究所
情報・システム研究機構 統計数理研究所
資源・環境観測解析センター
地震予知総合研究振興会
地球環境産業技術研究機構
電力中央研究所
日本宇宙フォーラム
日本地図センター
深田地質研究所
全国地質調査業協会連合会
電子情報通信学会
東京都地質調査業協会
日本機械学会
日本航空宇宙学会
日本測量協会
日本分析機器工業会
千葉県教育委員会
千葉市教育委員会

■アルバイト・ボランティア　　：延べ約 250 名

**特別対応セッション

2009年：ｷｬﾘｱﾊﾟｽｾｯｼｮﾝ

2008年：災害緊急ｾｯｼｮﾝ

2007年：U054ｼﾞｵﾊﾟｰｸｾｯｼｮﾝ（特別ﾕﾆｵﾝｾｯｼｮﾝ）

2006年：U055ﾌﾟﾗｽﾞﾏｾｯｼｮﾝ（特別ﾕﾆｵﾝｾｯｼｮﾝ）

■ 投稿

2010年申込：3685件（投稿取消除く）

2009年申込：3088件（投稿取消除く）

2008年申込：3218件（投稿取消除く）

2007年申込：3121件（投稿取消除く）

2006年申込：2725件

2005年申込：2336件（全投稿数：2342件－投稿取消：6件）

セッション種類別、発表形態別投稿数　2010年大会よりレギュラー、スペシャルの区分なし

セッション種類・数 2010年大会実績（2009）（2008）（2007）（2006）（2005年）		口　頭		ポスター		計	
レギュラーセッション	160 (78)(72)(71)(61)(63)	2027	(1063)(1023)(995)(811)(846)	1499	(995)(976)(912)(863)(730)	3526	(2058)(1999)(1907)(1674)(1576)
スペシャルセッション	(48)(51)(54)(40)(39)		(590)(675)(619)(455)(435)		(274)(375)(442)(330)(253)		(864)(1050)(1061)(785)(688)
ユニオンセッション	4 (4)(4)(3)(4)(2)	47	(39)(41)(44)(137)(25)	25	(2)(3)(15)(94)(6)	72	(41)(44)(59)(231)(31)
一般公開ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	3 (4)(6)(6)(4)(6)	16	(40)(30)(29)(13)(26)	71	(85)(66)(65)(22)(15)	87	(125)(96)(94)(35)(41)
その他（特別ｼﾝﾎﾟ・災害緊急）	0(2)	0(0)		0(29)		0(29)	
	167 (134)(135)(134)(109)(110)	2090	(1732)(1769)(1687)(1416)(1332)	1595	(1356)(1449)(1434)(1309)(1004)	3685	(3088)(3218)(3121)(2725)(2336)

2005-2010年大会登録状況

平成22年度第4回理事会
2010/7/23配付資料

		2010年			2009年			2008年			2007年			2006年			2005年			増減(2010-2009)
		申込件数	単価	金額	申込件数	単価	金額	申込件数	単価	金額	申込件数	単価	金額	申込件数	単価	金額	申込件数	単価	金額	
会員	早期全日程(一般)	1,511	11,000	¥16,621,000	1,336	11,000	¥14,696,000	1,581	13,000	¥20,553,000	1,575	13,000	¥20,475,000	1,472	13,000	¥19,136,000	1,352	11,000	¥14,872,000	¥1,925,000
	早期全日程(小中高教員)	8	5,500	¥44,000	10	4,500	¥45,000	10	6,500	¥65,000	11	6,500	¥71,500							¥-1,000
	早期全日程(学生)	534	5,500	¥2,937,000	516	5,500	¥2,838,000	594	6,500	¥3,861,000	617	6,500	¥4,010,500	574	6,500	¥3,731,000	610	5,500	¥3,355,000	¥99,000
	早期24時間券×2(一般)	37	10,000	¥370,000																¥370,000
	早期24時間券×2(小中高教員)	3	4,000	¥12,000																¥12,000
	早期24時間券×2(学生)	34	4,000	¥136,000																¥136,000
	早期24時間券(一般)	259	5,000	¥1,295,000	211	5,000	¥1,055,000	331	7,000	¥2,317,000	300	7,000	¥2,100,000	229	7,000	¥1,603,000	186	6,000	¥1,116,000	¥240,000
	早期24時間券(小中高教員)	16	2,000	¥32,000	14	1,000	¥14,000	11	3,000	¥33,000	7	3,000	¥21,000							¥18,000
	早期24時間券(学生)	145	2,000	¥290,000	108	2,000	¥216,000	151	3,000	¥453,000	118	3,000	¥354,000	87	3,000	¥261,000	74	3,000	¥222,000	¥74,000
非会員	早期全日程(一般)	55	18,000	¥990,000	68	18,000	¥1,224,000													¥-234,000
	早期全日程(小中高教員)	0	11,500	¥0	0	11,500	¥0													¥0
	早期全日程(学生)	13	11,500	¥149,500	9	11,500	¥103,500													¥46,000
	早期24時間券(一般)	42	12,000	¥504,000	26	12,000	¥312,000													¥192,000
	早期24時間券(小中高教員)	1	8,000	¥8,000	0	8,000	¥0													¥8,000
	早期24時間券(学生)	6	8,000	¥48,000	9	8,000	¥72,000													¥-24,000
＊＊特別割引	早期全日程(一般)	24	11,000	¥264,000																¥264,000
	早期全日程(学生)	12	5,500	¥66,000																¥66,000
	早期24時間券×2(学生)	1	4,000	¥4,000																¥4,000
	早期24時間券(一般)	6	5,000	¥30,000																¥30,000
(早期参加登録計)		2,707		¥23,800,500	2,307		¥20,575,500	2,678		¥27,282,000	2,628		¥27,032,000	2,362		¥24,731,000	2,222		¥19,565,000	¥3,225,000
会員	通常全日程(一般)	448	13,000	¥5,824,000	503	13,000	¥6,539,000	461	15,000	¥6,915,000	435	15,000	¥6,525,000	325	15,000	¥4,875,000	262	13,000	¥3,406,000	¥-715,000
	通常全日程(小中高教員)	4	7,000	¥28,000	3	6,000	¥18,000	5	8,000	¥40,000	6	8,000	¥48,000							¥10,000
	通常全日程(学生)	245	7,000	¥1,715,000	196	7,000	¥1,372,000	177	8,000	¥1,416,000	203	8,000	¥1,624,000	201	8,000	¥1,608,000	169	7,000	¥1,183,000	¥343,000
	通常24時間券×2(一般)	79	12,000	¥948,000																¥948,000
	通常24時間券(一般)	482	6,000	¥2,892,000	468	6,000	¥2,808,000	537	8,000	¥4,296,000	546	8,000	¥4,368,000	349	8,000	¥2,792,000	342	7,000	¥2,394,000	¥84,000
	通常24時間券(小中高教員)	12	4,000	¥48,000	10	3,000	¥30,000	13	5,000	¥65,000	12	5,000	¥60,000							¥18,000
	通常24時間券(学生)	197	4,000	¥788,000	152	4,000	¥608,000	149	5,000	¥745,000	152	5,000	¥760,000	104	5,000	¥520,000	125	4,000	¥500,000	¥180,000
非会員	通常全日程(一般)	49	20,000	¥980,000	48	20,000	¥960,000													¥20,000
	通常全日程(小中高教員)	0	13,000	¥0	0	13,000	¥0													¥0
	通常全日程(学生)	7	13,000	¥91,000	8	13,000	¥104,000													¥-13,000
	通常24時間券(一般)	76	13,000	¥988,000	57	13,000	¥741,000													¥247,000
	通常24時間券(小中高教員)	0	10,000	¥0	0	10,000	¥0													¥0
	通常24時間券(学生)	6	10,000	¥60,000	5	10,000	¥50,000													¥10,000
＊＊特別割引	通常全日程(一般)	4	13,000	¥52,000							11	3,000	¥33,000	59	6,500	¥383,500				¥52,000
	通常全日程(学生)	2	7,000	¥14,000										16	3,000	¥48,000				¥14,000
	通常24時間券×2(一般)	1	12,000	¥12,000																¥12,000
	通常24時間券(一般)	3	6,000	¥18,000																¥18,000
無料券(学部生以下)		380	0	¥0	352	0	¥0	401	0	¥0	270	0	¥0	263	0	¥0	246	0	¥0	¥0
無料券(70歳以上)		61	0	¥0	59	0	¥0	63	0	¥0	60	0	¥0	64	0	¥0	37	0	¥0	¥0
一般公開ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 一般			0	¥0	172(内教員52)	0	¥0	131(内教員60)	0	¥0	133(内 教員53)	0	¥0	136(内 教員68)	0	¥0				¥0
一般公開ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 学生		451	0	¥0	5	0	¥0	3	0	¥0	3	0	¥0	9	0	¥0				¥0
一般公開ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 学部生以下			0	¥0	148	0	¥0	144	0	¥0	102(内 中高生68)	0	¥0	109(内 中高生94)	0	¥0				¥0
特別ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ参加者			0	¥0		0	¥0	29	0	¥0			¥0			¥0				¥0
ﾌﾟﾚｽ(2008より)		38	0	¥0	25	0	¥0	77	0	¥0										¥0
出展関係者(2008より)		494	0	¥0	289	0	¥0	219	0	¥0										¥0
(通常参加登録計)		3,039		¥14,458,000	2,500		¥13,230,000	2,409		¥13,477,000	1,933		¥13,418,000	1,635		¥10,226,500	1,181		¥7,483,000	¥1,228,000
A. 参加登録 合計		5,746		¥38,258,500	4,807		¥33,805,500	5,087		¥40,759,000	4,561		¥40,450,000	3,997		¥34,957,500	3,403		¥27,048,000	¥4,453,000
投稿(高校生ﾎﾟｽﾀｰ)		51	0	¥0	48	0	¥0	39	0	¥0	34	0	¥0	22	0	¥0				¥0
投稿(一般公開2008より)		36	0	¥0	77	0	¥0	57	0	¥0	-		¥0	-		¥0				¥0
投稿(早期)		1,547	1,500	¥2,320,500	1,157	1,500	¥1,735,500	1,320	1,500	¥1,980,000	1268(内 無料19)	1,500	¥1,873,500	1063(内 無料57)	1,500	¥1,509,000	953	1,500		¥585,000
投稿(通常)		2,051	3,000	¥6,153,000	1,796	3,000	¥5,388,000	1,773	3,000	¥5,319,000	1821(内 無料41)	3,000	¥5,340,000	1640(内 無料162)	3,000	¥4,431,000	1,316	3,000		¥765,000
特別対応ｾｯｼｮﾝ投稿料**			0	¥0	10	0	¥0	29	0	¥0			¥0	106	1,500	¥159,000	73		¥75,000	¥0
①(投稿 計)		3,685		¥8,473,500	3,088		¥7,123,500	3,218		¥7,299,000	3123(内 無料94)		¥7,213,500	2725(内 無料242)		¥5,940,000	2,342			¥1,350,000
図面(データ)		169	500	¥84,500	91	500	¥45,500	69	500	¥34,500	128(内 無料2)	500	¥63,000	108(内 無料12)	500	¥48,000	91	500		¥39,000
図面(郵送)		0	1,000	¥0	0	1,000	¥0	0	1,000	¥0	0	1,000	¥0	8(内 無料1)	1,000	¥7,000	2	1,000		¥0
②(図面 計)		169		¥84,500	91		¥45,500	69		¥34,500	128(内 無料2)		¥63,000	116(内 無料13)		¥55,000	93			¥39,000
B.投稿料合計(①+②)				¥8,558,000			¥7,169,000			¥7,333,500			¥7,276,500			¥5,995,000			¥5,420,000	¥1,389,000
団体展示ﾌﾞｰｽ数(COE含む)		46	300,000	¥13,800,000	42.5	300,000	¥12,750,000	42	300,000	¥12,600,000	41	300,000	¥12,300,000	32	250,000	¥8,000,000	24	250,000	¥6,000,000	¥1,050,000
書籍展示ﾌﾞｰｽ数		26	30,000	¥780,000	28	30,000	¥840,000	20	30,000	¥600,000	16	30,000	¥480,000	17	30,000	¥510,000	16	30,000	¥480,000	¥-60,000
大学ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝﾊﾟﾈﾙ数		10	70,000	¥700,000	5	50,000	¥250,000	12	50,000	¥600,000	7	50,000	¥350,000	8	50,000	¥400,000	0	50,000	¥0	¥450,000
ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄﾃﾞｽｸ数		9	30,000	¥270,000	11	30,000	¥330,000	11	30,000	¥330,000	7(内無料1)	30,000	¥180,000							¥-60,000
学会受付数		9	30,000	¥270,000	9	30,000	¥270,000	8	30,000	¥240,000	5	30,000	¥150,000	5	30,000	¥150,000	5	30,000	¥150,000	¥0
会合数		70		¥2,578,500	84		¥2,359,000	70		¥1,868,000	68		¥1,874,000	63		¥1,519,925	51		¥1,357,250	¥219,500
後援団体数		47(内 一般公開のみ2)			47(内 一般公開のみ2)			49(内 一般公開のみ2)			49(内 一般公開のみ2)			48(内 一般公開のみ2)			49(内 一般公開のみ2)			¥0
C.展示・会合費合計				18,398,500			16,799,000			16,238,000			15,334,000			10,579,925			7,987,250	¥1,599,500
ABC合計				65,215,000			57,773,500			64,330,500			63,060,500			51,532,425			40,455,250	¥7,441,500

＊ 参加登録数は来場者数でなく、登録数

*ﾌﾟﾚｽ 2007年 38名

** 2010年特別割引「プラズマ3学会割引適用)

2010年度会費入金額2010/7/23現在 7,468,000円	2009年度会費収入 8,690,000円

2008年以前は年会費なし

2010年大会 総合案内来場者数

	23日（日）	24日（月）	25日（火）	26日（水）	27日（木）	28日（金）	
パブリック	286						
高校生発表者	165						
ジオパーク発表者	20						
学部生以下（ユニーク）	61	84	75	80	55	25	
学部生以下（各日参加数）	61	106	122	125	101	50	
シニア	14	5	16	7	3	2	
プレス(ユニーク)	19	8	0	11	0	1	
プレス(各日参加数)	19	10	2	15	3	2	合計（ユニーク）
合計	565	97	91	98	58	28	937

※合計は学部生・プレスの各日参加数を除く

23日パブリックセッション参加者内訳

参加者身分

			一般	教員	大学院生	学部生（パブリックのみ）	学部生（セッション含）	高校生	不明	合計
総数	一般参加者		135	19	6	10	29	65	22	286
	発表者	高校生セッション		39				126		165
		ジオパーク	20							20
										471

セッション別参加者数（複数回答有り）	一般	教員	大学院生	学部生（パブリックのみ）	学部生（セッション含）	高校生	不明	合計
高校生セッション	23	17	0	3	10	51	1	105
ジオパーク	91	6	5	6	11	1	16	136
トップセミナー	26	10	1	6	22	16	0	81
合計	140	33	6	15	43	68	17	322

参加者内訳（ユニーク数）

参加セッション	一般	教員	大学院生	学部生（パブリックのみ）	学部生（セッション含）	高校生	不明	合計
高校生セッション	8	6	0	1	1	39	1	56
ジオパーク	74	0	5	3	2	0	16	100
トップセミナー	12	0	1	3	13	4	0	33
高校 ＋ ジオ	4	1	0	0	0	0	0	5
高校 ＋ トップ	1	5	0	0	0	11	0	17
ジオ ＋ トップ	3	0	0	1	0	0	0	4
高校 ＋ ジオ ＋ トップ	10	5	0	2	9	1	0	27
不明	23	2	0	0	4	10	5	44
合計	135	19	6	10	29	65	22	286

アンケート	高校生	ジオパーク	トップセミナー	高校ジオパーク＋トップ	高校ジオパーク	高校トップ	ジオパークトップ	合計
先生から	14	6	8	10		7		45
ホームページ	3	12	8	7	2		2	34
知人から	1	10	5	3			1	20
学校・職場のポスター・チラシ	3	2	4	5			1	15
連合から		1	3	2	2	1	1	10
加盟学会から		4	1		1	1		7
家族から	1		1	1		1		4
新聞				1				1
ラジオ								0
テレビ								0
その他								
関係者		1						1
ジオパーク事務局		1						1
博物館			1					1
パンフレット			1					1
SPP行事						1		1

大会本部報告

会場係から本部へのトラブル報告及び対応

会場	報告内容	本部対応	原因・備考
23日			
101	プロジェクタ接続トラブル	再起動を促す	
201A	寒い	メッセへ対応を依頼	
201B	プロジェクタ切り替え器作動せず	メッセへ対応を依頼	信号を送っていなかった
	照明がコントロールできない	メッセへ対応を依頼	
301A	寒い	メッセへ対応を依頼	
	急病人が発生	救護室へ	胃薬で解決
302	暑い	メッセへ対応を依頼	
F-A	やや明るすぎる	メッセへ対応を依頼	
展示別室1	明るすぎる	メッセへ対応を依頼	
展示別室2	空調が切れている	メッセへ対応を依頼	空調開始が9:00～となっていた
	寒い	メッセへ対応を依頼	
24日			
201A	照明が明るすぎる	メッセへ対応を依頼	
	寒い	メッセへ対応を依頼	
201B	照明が明るすぎる	メッセへ対応を依頼	
	プロジェクタ表示不具合	本部出動	PCを変えたら直った
302	マイクをもう一本欲しい	メッセへ対応を依頼	有線：無料
304	寒い	メッセへ対応を依頼	
国際会議室	プロジェクタが写らない	自力で解決	
25日			
201B	寒い	メッセへ対応を依頼	
	照明を暗くして欲しい	メッセへ対応を依頼	
	プロジェクタ不良	メッセへ対応を依頼	
302	寒い	メッセへ対応を依頼	
303	寒い	メッセへ対応を依頼	
304	寒い	メッセへ対応を依頼	
26日			
201A	寒い	メッセへ対応を依頼	
201B	寒い	メッセへ対応を依頼	
303	寒い	メッセへ対応を依頼	
304	寒い	メッセへ対応を依頼	
27日			
101	プロジェクタ切り替え器が使えない	本部出動	操作ミス
F-A	発表者を写真で撮りたい	座長と相談してもらう	
28日			
201A	寒い	メッセへ対応を依頼	
301A	プロジェクタ不良	メッセへ対応を依頼	

本部で気づいた，または本部へ直接届いた要望等

内容	理由・解決策等
ICの時間延長に注意	昼休みのスペシャルレクチャーに影響しないように
本部のネット環境をもっと増やした方がよい	
ポスター発表の時間の変更	19:00にはほとんどの人が帰っているが，ごく僅か20:00まで残っている人がいる．翌日のポスター準備やクロークの撤収のためにも，19:15程度で会場を閉めた方がよいのではないか．
発表者及び発表準備者への電源供給	特に学部生や院生など，古いPCを使っている人は，電池切れが心配で発表に集中できない．発表者だけでも電源が使用できるようにできないか．
名札の印刷を受付から本部へ移行	受付の仕事の軽減のため
24時間名札のチェック方法の改善	日付と時間のチェックが甘いが，今の方法ではどうしても識別しづらい
最終日のポスターセッションの必要性 （ポスター会場が足りない）	復活した方がよい？
会場でマイクを使用したい	メッセからレンタル？購入？（＊下記参照）
レーザーポインタを全室で使用したい	配備されていない会場は残り数室のため，不公平感がある
事前登録者も長蛇の列になっていた 新規登録のパソコンへの入力項目が多すぎる	・海外学会のようにメールか何かのコピーを見せるだけにする →場所がたりない，メールを持ってこない，自分のID・PWがわからない ・本屋のところにも受付を増やす？ →二日目まで本屋無しはつらい ・1-2日目のバイトを増やす→システムを決めてから ・入口の仕分けバイトの導入
座長にのみ欠席連絡があり，本部まであがってこない 座長がギリギリまで来ない	・事前に座長心得を送っておく ・ついでにプロジェクタ操作についても？
チラシの無断配布，無断張り紙があった	お金を払っていないものは厳禁

※マイクについて

◆ 国際会議室，101，201，301，302，303，304はレンタルの設備としてマイク3本使用可のはず

⇒ 現状国際会議室以外は言わないと準備されていない？

◆ 上記以外の会場でのマイク使用について

【幕張メッセからレンタルの場合 （すべて1本，1日あたり）】

有線マイク	1050円
ワイヤレスマイク	3150円
ピンマイク（ワイヤレス）	3151円

【備品として購入の場合】

有線マイク	2～7000円程度
無線マイク	35000円～
ピンマイク（有線）	2～4000円程度

ただし，幕張メッセへ機器使用料（1日，1部屋/1050円）が必要？

日付	コマ	会場名		セッション記号	セッション名	定員	参加人数	備考
5/23	AM1	101	★	H-SC016	Urbanization	140	20	
5/23	AM2	101	★	H-SC016	Urbanization	140	20	
5/23	PM1	101		G-SC020	アウトリーチ	140	25	
5/23	PM2	101		G-SC020	アウトリーチ	140	30	
5/23	AM1	FRA	★	A—CG033	陸域・海洋相互作用	180	25	白紙がないかと聞かれてきた方がおられました。DELL使用の発表者の方のパソコンとプロジェクタ出力の相性がよくない？
5/23	AM2	FRA	★	A—CG033	陸域・海洋相互作用	180	25	
5/23	PM1	FRA	★	A—CG033	陸域・海洋相互作用	180	20	
5/23	PM2	FRA		S—RD051	レアメタル・レアアース	180	40	
5/23	AM1	FRB		M-IS012	結晶成長：界面・ナノ現象	140	28	人はまばらに座っている（比較的後ろが多め）・発表者のスライドで背景が黒のものが多く、部屋のあかりが明るくて見づらい。特に苦情はなかったが、座長から途中にー
5/23	AM2	FRB		M-IS012	結晶成長：界面・ナノ現象	140	32	前の席にも人は多い
5/23	PM1	FRB		S-MP055	変形岩と変成岩	140	70	議論が結構白熱していた時がある（質疑応答）
5/23	PM2	FRB		S-MP055	変形岩と変成岩	140		後ろ側に人がよっていた。遅れて聞きにくる人が多い・前方及び列の真ん中あたりの席が空いているが、立ち見をしている人も5名程いた
5/23	AM1	国際会議室		O-ES006	地球惑星トップセミナー	300	200	
5/23	AM2	国際会議室		O-ED001	地球惑星トップセミナー	300	210	
5/23	PM2	国際会議室		O-ED001	高校生発表セッション	300	110	
5/23	AM1	201A		S-CG083	断層帯の化学	140	30	朝一番は人が少ない
5/23	AM2	201A		P-EM022	磁気圏電離圏結合	140	45	レーザーポインターが必要・マイクが足りない・一番後ろの列と壁との間が狭いので通りにくい、奥に行きづらい
5/23	PM1	201A		P-EM022	磁気圏電離圏結合	140	65	
5/23	PM2	201A		P-EM022	磁気圏電離圏結合	140	55	
5/23	AM1	201B		S-VC062	火山・火成活動と時期予測	140	70	通路が狭かったので椅子を動かした・照明を暗くした
5/23	AM2	201B		S-VC062	火山・火成活動と時期予測	140	60	画面の切り替えに手間取り時間がかかってしまった
5/23	PM1	201B		S-VC062	火山・火成活動と時期予測	140	130	午前と比較してより多数の方が集まっていた
5/23	PM2	201B		S-C6085	低周波振動現象	140	160	1鈴7分、2鈴10分、3鈴13分　会場に人が入りきれなかっ
5/23	AM1	202		G-HE030	科学史・科学哲学	70	48	
5/23	AM2	202		G-HE030	科学史・科学哲学	70	70	後半、席が足りない状態になってしまいました
5/23	PM1	202	★	H-GG001	GLP	70	33	
5/23	PM2	202	★	H-GG001	GLP	70	29	
5/23	AM1	301A		S-GC065	固体地球化	110	40	空調の調整依頼（寒い）
5/23	AM2	301A		S-GC065	固体地球化	110	70	途中で入ってこられた、後ろで立ち見の方が多い（席は空いていても発表の間に座られることもあまりない）
5/23	PM2	301A		S-MP057	水素中性子地球科学	110	50	14:03 トイレで気分が悪くなった方の荷物を引き取り本部へ連絡（茶色リュック・プログラム・ペン）
5/23	PM2	301A		S-MP057	固体地球化	110	65	
5/23	AM1	301B		B-BG005	生命・水・鉱物・大気	130	42	朝方、遠方から出発した方が多いようでスタートしてから少しずつ人が集まりだした
5/23	AM2	301B		B-BG005	生命・水・鉱物・大気	130	50	後からきた人が気を使ってか立ち見しているのが目立った。時間管理、前から座っていくなどで改善できそうでできなそう。
5/23	PM1	301B		B-BG005	生命・水・鉱物・大気	130	60	
5/23	PM2	301B		B-BG005	生命・水・鉱物・大気	130	50	
5/23	AM2	302		O-ES005	ジオパーク	200	200	03の風景写真がとてもきれいでした。質問者用マイクって誰が渡す？北海道から沖縄まで、初めから終わりまで、ほぼ全部同じくらいの人数で満席前後だった。05が一番多く聞かれていた。
5/23	PM1	302		O-ES005	ジオパーク	200	240	パソコン画面の切り替えでハプニングがありました（何とか乗り越える）人の入れ替わりは少ない（固定客のような感じ）このセッションの発表は景色写真が多くてきれいなスライドばかりだ、後ろの方になるほど人が増えて立ち見
5/23	PM2	302		O-ES005	ジオパーク	200	230	カメラ・ビデオを撮っている人が結構多い？？付加帯ケーキとかあるらしい！！5/10は地質の日！って知らなかった、来賓席が埋まり切っていなかった。またもや固定客、入れ替わりは少ない、とても真剣は雰囲気、人がずっと
5/23	AM1	303	★	M-IS010	Deep Carbon Cycle	200	30	途中でポインターの電池が切れた
5/23	AM2	303	★	M-IS010	Deep Carbon Cycle	200	55	質問が多くよい雰囲気、しかし、それゆえに延長もしばし
5/23	PM1	303	★	M-IS010	Deep Carbon Cycle	200	30	
5/23	PM2	303	★	S—SS019	Nankai Seismogenic zone experiments	200	60	
5/23	AM1	304	★	P-PS001	Mars	160	40	
5/23	AM2	304	★	P-PS001	Mars	160	40	
5/23	PM1	304	★	P-PS001	Mars	160	60	発表者で事前連絡なくキャンセルした人が1人いた
5/23	PM2	304	★	M-GI018	地球情報と3次元モデル	160	40	
5/23	AM1	EH7-Sub1	★	G-EJ001	小中学校教育	160	40	和やかな雰囲気でした、蛍光灯を外しました、初めは受付が込んでいて20人くらいでしたが、徐々に増えてきて最終的には40人近く集まった
5/23	AM2	EH7-Sub1		P-EM026	宇宙プラズマ	160	40	3番目の発表者が欠席したのでとばしました、別室1の場所がわからなかったという人が数人いた
5/23	PM1	EH7-Sub1		P-EM028	3学会合同プラズマ物理1	160	70	セッションプログラムと時間配分が異なっていた→部屋の入り口に正しい時間帯を記した紙を提示
5/23	PM2	EH7-Sub1		P-EM028	3学会合同プラズマ物理1	160	70	PM1と同様セッションプログラムと時間配分が異なる→部屋の入り口に正しい時間帯を記した紙を提示
5/23	AM1	EH7-Sub2		S-MP056	鉱物の物理化学	85	25	
5/23	AM2	EH7-Sub2		S-MP056	鉱物の物理化学	85	20	パソコンの不具合が多かった
5/23	PM1	EH7-Sub2		G-SU011	高等学校、大学教育	85	50	立ち見の方がいらっしゃった（前の方が少しあいていた

日付	コマ	会場名		セッション記号	セッション名	定員	参加人数	備考
5/23	PM2	EH7-Sub2		G-SU011	高等学校、大学教育	85	35	真端に人が座っている場合、中に入れず、前の方の席が空いていても、後ろに立たざるをえない方がいらっしゃる。狭い部屋だが真ん中にも通路を作った方がよいのでは
5/23	AM1	EH7-Sub3		H-SC015	人間環境と災害リスク	70	40	AM1では質問がでづらかった
5/23	AM2	EH7-Sub3		H-SC015	人間環境と災害リスク	70	40	立ち見の方が5～10人いました。最初に来た人が通路側に座ってしまい、内側が空いていました
5/23	PM1	EH7-Sub3		H-SC019	ダム堆積物	70	30	
5/23	PM2	EH7-Sub3		H-SC018	自然素材の高度利用	70	20	講演スケジュールはドアに貼った方がいいと思いました
5/24	AM1	101		S-MP057	水素中性子地球科学	140	30	Amということではじめは集まりが悪かったが、時間が経つにつれ人数が多くなった
5/24	AM2	101		S-IT036	地球深部科学	140	40	
5/24	PM1	101	★	S-IT041	Molten Earth	140	48	
5/24	PM2	101	★	S-IT041	Molten Earth	140	50	
5/24	AM1	FRA		P-EM021	宇宙天気	180	60	来場者多数、遅れて来る人も多い
5/24	AM2	FRA		P-EM021	宇宙天気	180	60	立った傍聴者が多い
5/24	PM1	FRA		P-EM021	宇宙天気	180	40	
5/24	PM2	FRA		P-EM021	宇宙天気	180	40	
5/24	AM1	FRB		M-IS005	ガスハイドレート	140	50	2つ目の発表あたりから人が増え始めた・3つ目からは定常状態に
5/24	AM2	FRB		M-IS005	ガスハイドレート	140	70	
5/24	PM1	FRB	★	P-EM027	Energetic Particle Dynamics	140	40	
5/24	PM2	FRB	★	P-EM027	Energetic Particle Dynamics	140	40	
5/24	AM1	国際会議室		S-SS016	強振動・地震災害	300	120	途中入場の方が多いので皆後ろの方に座ってしまい、入った人が少し立ち見をしていることが多い（座長と打ち
5/24	AM2	国際会議室		S-SS016	強振動・地震災害	300	140	
5/24	PM1	国際会議室		S-CG081	兵庫県南部地震15年	300	150	
5/24	PM2	国際会議室		S-CG081	兵庫県南部地震15年	300	110	
5/24	AM1	201A		P-PS003	新しい月の科学	140	70	
5/24	AM2	201A		P-PS003	新しい月の科学	140	90	
5/24	PM1	201A		P-PS003	新しい月の科学	140	100	座長にアナウンスの依頼（明日、月磁場のセッションがある事）があった。入口のポスター　臼本先生が坂本先生になっていた
5/24	PM2	201A		P-PS003	新しい月の科学	140	80	
5/24	AM1	201B		S-VC063	活動的火山	140	120	人の出入りが多く、前方の席が空いていても、アナウンスに応じて移動する人は少ない、常に10から20人位の方が立ち見されている
5/24	AM2	201B		S-VC063	活動的火山	140	130	立ち見の方がい多い、10～20人
5/24	PM1	201B		S-VC063	活動的火山	140	140	10数名が立ち見されている、席は奥側が数席空いている程度
5/24	PM2	201B		S-VC063	活動的火山	140	95	
5/24	AM1	202	★	H-TT031	GIS	70	25	
5/24	AM2	202		H-TT032	地理情報システム	70	50	
5/24	PM1	202		H-SC017	商品化農村	70	35	文字ベースの議論や発表は時間がかかる
5/24	PM2	202		H-SC017	商品化農村	70	30	
5/24	AM1	301A	★	S-SS022	Earthquake Predictability Research	110	37	01番の発表者欠席の為時間が変則的だった、時間とともに人が集まってきた
5/24	AM2	301A	★	S-SS022	Earthquake Predictability Research	110	52	
5/24	PM2	301A		S-SS012	地震予知	110	62	1個の発表時間が11分と短く、次のセッションまで時間があることで、1人あたり1～2分程伸ばして話していた様子
5/24	PM2	301A	★	H-TT030	Environment Remote Sesging	110	38	前の団体終了から発表開始まで5群しかなかったが、順調に準備が整い、定刻で始められた。一人あたりおよそ10分程度の内容がありとてもスムーズに遂行できた
5/24	AM1	301B	★	B-A0001	Astrogiology	130	65	
5/24	AM2	301B	★	B-A0001	Astrogiology	130	46	
5/24	PM1	301B		B-PT012	化学合成生態系の進化	130	62	
5/24	PM2	301B		B-PT011	地球生命史	130	70	
5/24	AM1	302		U-004	地殻流体と沈み込み帯	200	220	前の方の席が少し空いていたが最大40名ほどの人が立ち見をしている状態であった。5分間の議論の時間が確保され、活発な議論が行われた。
5/24	AM2	302		U-004	地殻流体と沈み込み帯	200	170	
5/24	PM1	302		U-004	地殻流体と沈み込み帯	200	170	
5/24	PM2	302		U-004	地殻流体と沈み込み帯	200	200	
5/24	AM1	303	★	S-SS019	Nankai Seismogenic zone experiments	200	70	
5/24	AM2	303	★	S-SS019	Nankai Seismogenic zone experiments	200	110	
5/24	PM1	303		S-SS027	連動型巨大地震	200	130	
5/24	PM2	303		S-SS027	連動型巨大地震	200	180	
5/24	AM1	304		M-IS011	変わる時代のものさし	160	60	
5/24	AM2	304		M-IS011	変わる時代のものさし	160	60	
5/24	PM1	304		M-IS007	地球掘削科学	160	70	
5/24	PM2	304		M-IS007	地球掘削科学	160	70	
5/24	AM1	EH7-Sub1		P-EM031	3学会合同プラズマ物理2	160	46	
5/24	AM2	EH7-Sub1		P-EM031	3学会合同プラズマ物理2	160	55	
5/24	PM1	EH7-Sub1		P-EM032	3学会合同プラズマ物理3	160	48	
5/24	PM2	EH7-Sub1		P-EM032	3学会合同プラズマ物理3	160	59	
5/24	AM1	EH7-Sub2		S-CG082	岩石・鉱物・資源	85	25	後ろの方の席に座っている人が多かったため座長に前の方に移動してくるように促してもらったが、移動してくれる人は少なかった
5/24	AM2	EH7-Sub2		S-CG082	岩石・鉱物・資源	85	50	最終セッションの方が連絡なく来られませんでした、座長の判断で5分待って来なかったらセッション終了・・・となり

日付	コマ	会場名		セッション記号	セッション名	定員	参加人数	備考
5/24	PM1	EH7-Sub2		M-GI015	情報地球惑星科学	85	40	情報の人は声が小さめ、部屋にマイクなし、後ろの方の席に聞こえているか微妙・・・。特に苦情はなかったが
5/24	PM2	EH7-Sub2		M-GI015	情報地球惑星科学	85	30	
5/24	AM1	EH7-Sub3		H-DS021	地質災害	70	40	1日通しのセッションだったので徐徐に人が増えて満席になりました
5/24	AM2	EH7-Sub3		H-DS021	地質災害	70	50	部屋の外を車が通るとうるさいです。マイクがあると助かります
5/24	PM1	EH7-Sub3		H-DS021	地質災害	70	50	共有のPCがあるとよいと思いました。作動しなくなってしまうPCや持ってきていない方もいたので
5/24	PM2	EH7-Sub3		H-DS021	地質災害	70	50	
5/25	AM1	101	★	S-IT042	Mineral physics and dynamics of mantle	140	70	後方に立ちながら聞いている人がおおかった
5/25	AM2	101	★	S-IT042	Mineral physics and dynamics of mantle	140	70	
5/25	PM1	101	★	S-IT042	Mineral physics and dynamics of mantle	140	70	すこし時間がオーバーした
5/25	PM2	101	★	S-IT042	Mineral physics and dynamics of mantle	140	70	最後の発表者が会場にきていなかった。前のセクションが長引き、開始時間が遅れた
5/25	AM1	FRA		P-EM021	宇宙天気	180	60	
5/25	AM2	FRA	★	P-EM036	CAWAWA-II, USWI	180	40	
5/25	PM1	FRA	★	P-EM036	CAWAWA-II, USWI	180	50	
5/25	PM2	FRA	★	P-EM036	CAWAWA-II, USWI	180	45	
5/25	AM1	FRB		S-TT075	応用逆解析手法とその活用	140	55	座長席からスクリーンが見えた方がよさそう
5/25	AM2	FRB		S-CG086	海洋底地球科学	140	55	
5/25	PM1	FRB		S-CG086	海洋底地球科学	140	80	
5/25	PM2	FRB		S-CG086	海洋底地球科学	140	70	
5/25	AM1	国際会議室		S-CG081	兵庫県南部地震15年	300	100	
5/25	AM2	国際会議室		S-SS018	地震波伝播	300	120	4番目のレポーターは出力信号が来ていませんでした。対応としてはPCの出力解像度を設定していただき、5番目の方は先に発表していただくことになりました。
5/25	PM1	国際会議室		S-SS018	地震波伝播	300	90	
5/25	PM2	国際会議室		S-SS018	地震波伝播	300	100	
5/25	AM1	201A		P-PS004	惑星科学	140	70	呼びかけたが座らない方が数名いた
5/25	AM2	201A		P-PS004	惑星科学	140	70	
5/25	PM1	201A		P-PS004	惑星科学	140	50	
5/25	PM2	201A		P-PS004	惑星科学	140	80	
5/25	AM1	201B		S-VC063	活動的火山	140	90	
5/25	AM2	201B		S-VC063	活動的火山	140	70	
5/25	PM1	201B		S-VC061	火山の熱水系	140	60	
5/25	PM2	201B		S-VC061	火山の熱水系	140	50	
5/25	AM1	202		M-GG002	フード	70	26	フード関係のみなさんは知り合いがほとんどらしく、セッション前から和気藹藹と雑談されていました
5/25	AM2	202		M-GG002	フード	70	32	
5/25	PM1	202		S-GL045	地球年代学	70	53	セッション中に入ってくる人はほぼ立ち見状態、特に一番最初のセッションは人が廊下まであふれていた
5/25	PM2	202		M-IS002	堆積と表層環境	70	70	
5/25	AM1	301A		M-IS009	地球史イベントの詳細対比	110	50	部屋後方に立って聞いている人も見られた
5/25	AM2	301A	★	S-SS025	What learned from Wenchuan earthquake	110	45	
5/25	PM1	301A	★	S-SS025	What learned from Wenchuan earthquake	110	50	
5/25	PM2	301A	★	S-SS025	What learned from Wenchuan earthquake	110	60	座りきれずに部屋の後方や入り口の所に立って聞いている人が多く見られた
5/25	AM1	301B		B-PO021	遠洋域の進化	130	42	
5/25	AM2	301B		B-PO021	遠洋域の進化	130	57	
5/25	PM1	301B	★	B-PO020	Biocalcification and Paleoceanography	130	68	
5/25	PM2	301B	★	B-PO020	Biocalcification and Paleoceanography	130	72	
5/25	AM1	302		S-CG004	地殻流体と沈み込み帯	200	120	
5/25	AM2	302		S-CG004	地殻流体と沈み込み帯	200	110	
5/25	PM1	302		S-SS023	関東アスペリティ	200	120	
5/25	PM2	302		S-SS023	関東アスペリティ	200	90	
5/25	AM1	303		P-EM029	3学会合同プラズマ物理4	200	60	プロジェクターのケーブル1とMACのパソコンの相性が悪
5/25	AM2	303		P-EM029	3学会合同プラズマ物理4	200	60	
5/25	PM1	303		P-EM029	3学会合同プラズマ物理4	200	60	
5/25	PM2	303		P-EM029	3学会合同プラズマ物理4	200	60	
5/25	AM1	304		M-IS007	地球掘削科学	160	35	
5/25	PM1	304		S-CG090	流体包有物	160	50	
5/25	PM2	304		S-CG090	流体包有物	160	50	
5/25	AM1	EH7-Sub1		S-CG084	地層処分	160	72	
5/25	AM2	EH7-Sub1		S-CG084	地層処分	160	90	
5/25	PM1	EH7-Sub1		S-CG084	地層処分	160	80	
5/25	PM2	EH7-Sub1		S-CG084	地層処分	160	80	
5/25	AM1	EH7-Sub2		S-EM032	古地磁気	85	50	
5/25	AM2	EH7-Sub2		S-EM032	古地磁気	85	60	一時立ち見が多かった(空席はそんなにない)
5/25	PM1	EH7-Sub2		S-EM032	古地磁気	85	50	丁度いいかすこし狭い位の人出
5/25	PM2	EH7-Sub2		A-HW019	流出予測:分類と閾値抽出	85	30	
5/25	AM1	EH7-Sub3		H-GM005	地形	70	36	
5/25	AM2	EH7-Sub3		H-GM005	地形	70	40	
5/25	PM1	EH7-Sub3		H-GM005	地形	70	45	
5/25	PM2	EH7-Sub3		S-GL046	地域地質と構造発達史	70	22	
5/26	AM1	101	★	S-IT039	Water in subduction zone	140	100	
5/26	AM2	101	★	S-IT039	Water in subduction zone	140	80	
5/26	PM1	101	★	S-IT040	Geodynamic Models of Data Constraint	140	70	No118のケーブルを使った方がいいです
5/26	PM2	101	★	S-IT040	Geodynamic Models of Data Constraint	140	65	
5/26	AM1	FRA	★	P-EM036	CAWSES-II, ISWI	180	40	最初の集まりが悪かった

日付	コマ	会場名		セッション記号	セッション名	定員	参加人数	備考
5/26	AM2	FRA	★	P-EM036	CAWSES-II, ISWI	180	40	
5/26	PM1	FRA		P-EM024	磁気圏物理	180	70	
5/26	PM2	FRA		P-EM024	磁気圏物理	180	70	
5/26	AM1	FRB		S-CG086	海洋底地球科学	140	40	人の出入りはほとんどない、立ち見が数人、議論がはずんでいる
5/26	AM2	FRB		S-CG086	海洋底地球科学	140	60	A側から入ってくる人も数人いる、セッション内容の張り紙が必要？議論がはずんでいます
5/26	PM1	FRB		S-SS026	地震学的観測結果の解釈	140	100	立ち見が多い、部屋に入りきれないときもあり、人の出入りがはげしい
5/26	PM2	FRB		S-SS026	地震学的観測結果の解釈	140	100	立ち見が多い、部屋に入りきれないときもあり、前席までしっかり埋まっている、議論がはずんでいる
5/26	AM1	国際会議室		U-001	進むべき道：大型研究	300	100	
5/26	AM2	国際会議室		U-001	進むべき道：大型研究	300	90	
5/26	PM1	国際会議室		U-001	進むべき道：大型研究	300	200	
5/26	PM2	国際会議室		U-001	進むべき道：大型研究	300	170	
5/26	AM1	201A		M-AG021	地球温暖化防止	140	40	
5/26	AM2	201A		M-AG021	地球温暖化防止	140	50	会場の後方に立って聞いている人も見られた
5/26	PM1	201A		M-AG021	地球温暖化防止	140	40	
5/26	PM2	201A		P-PS002	宇宙惑星固体物理	140	30	
5/26	AM1	201B		S-TT074	空中地球計測	140	40	質問が長引いてしまい10分押しました
5/26	AM2	201B		H-DS022	ヒマラヤの氷河湖決壊洪水	140	50	前列2列がほぼ空いた状態
5/26	PM1	201B		H-DS022	ヒマラヤの氷河湖決壊洪水	140	46	
5/26	PM2	201B		H-DS022	ヒマラヤの氷河湖決壊洪水	140	33	
5/26	AM1	202	★	A-GE030	Mass Transport and Environmental Assesment	70	45	立ち見学あり
5/26	AM2	202	★	A-GE030	Mass Transport and Environmental Assesment	70	45	
5/26	PM1	202		S-IT038	海洋リソスフェアの一生	70	83	人数に対し部屋が狭い（立ち見20人以上）、プログラム時間を変更（12分発表→15分発表）した為休憩がなくなった
5/26	PM2	202		S-IT038	海洋リソスフェアの一生	70	76	
5/26	AM1	301A		P-PS005	太陽系小天体の科学	110	70	
5/26	AM2	301A		P-PS005	太陽系小天体の科学	110	75	
5/26	PM1	301A		P-PS007	将来月惑星探査構想	110	120	
5/26	PM2	301A		P-PS007	将来月惑星探査構想	110	110	
5/26	AM1	301B		B-PT013	顕生代環境変動	130	36	
5/26	AM2	301B		B-PT013	顕生代環境変動	130	47	
5/26	PM1	301B	★	S-EM033	EM induction studies in land and ocean	130	73	
5/26	PM2	301B		S-EM031	地球内部電磁気学	130	75	PM1の時からあまり入れ替えがなかった
5/26	AM1	302		S-SS020	断層レオロジーと地質発生	200	50	
5/26	AM2	302		S-SS020	断層レオロジーと地質発生	200	70	
5/26	PM1	302		S-SS020	断層レオロジーと地質発生	200	50	
5/26	PM2	302		S-SS013	地震活動	200	40	
5/26	AM1	303		PE-M030	3学会合同プラズマ物理5	200	50	終始落ち着いた雰囲気、終了後エアコンが寒すぎるという苦情をうける
5/26	AM2	303		PE-M030	3学会合同プラズマ物理5	200	60	
5/26	PM1	303		PE-M035	3学会合同プラズマ物理6	200	50	
5/26	PM2	303		PE-M035	3学会合同プラズマ物理6	200	50	
5/26	AM1	304		S-SS020	首都直下プロジェクト	160	108	立ち見が多かったが左前方は席が空いていた、質問が少なく、座長が質問している場合が多く見られた
5/26	AM2	304		S-SS020	首都直下プロジェクト	160	110	開始時は立ち見も多く空席もあったが、最も人が多い時は席がすべてうまってしまっても立ち見が残ったのではないかと思うほど人がいた、ほぼすべての講演が時間内に
	PM1	304		AH-W016	都市域の地下水、環境地質	160	25	午前のセッションよりずいぶん人が少なかった
5/26	PM2	304		AH-W016	都市域の地下水、環境地質	160	37	
5/26	AM1	EH7-Sub1		S-SS017	活断層と古地震	160	65	
5/26	AM2	EH7-Sub1		S-SS017	活断層と古地震	160	90	
5/26	PM1	EH7-Sub1		S-SS017	活断層と古地震	160	90	
5/26	PM2	EH7-Sub1		H-DS024	活断層と古地震地震災害軽減	160	105	
5/26	AM1	EH7-Sub2		A-CG032	海と陸一過去・現在・モデル	85	60	来場者が50人を超えたあたりから立ち見する人が出始める（5人程度）
5/26	AM2	EH7-Sub2		A-CG032	海と陸一過去・現在・モデル	85	70	AM1よりも来場者が多く、常に立ち見する人が存在する状態となる（最大15人程度）
5/26	PM1	EH7-Sub2		A-CG032	海と陸一過去・現在・モデル	85	85	午前のセッションよりも来場者が増え椅子がほとんどすべて埋まるも立ち見する人が20人ほどになり、部屋に入れず廊下から覗いている人もいる
5/26	PM2	EH7-Sub2		B-BG006	サンゴ礁	85	55	発表者の為にマイクがほしいとの要望がありました
5/26	AM1	EH7-Sub3		A-HW017	水循環・水環境	70	30	静か
5/26	AM2	EH7-Sub3		A-HW017	水循環・水環境	70	30	
5/26	PM1	EH7-Sub3		M-IS006	陸域の生物地球化学	70	80	ほぼ満席でした
5/26	PM2	EH7-Sub3		M-IS006	陸域の生物地球化学	70	80	立ち見の方が10名ほどいらっしゃいました
5/27	AM1	101		S-IT040	Geodynamic Models of Data Constraint	140	45	
5/27	AM2	101	★	S-CG089	Arc Evolution	140	65	
5/27	PM1	101	★	S-CG089	Arc Evolution	140	45	
5/27	PM2	101		S-TT073	地震観測・処理システム	140	35	
5/27	AM1	FRA		A-EM011	大気圏・熱圏下部	180	51	スクリーンに写したときの色合いが少し悪い
5/27	AM2	FRA		P-EM025	電離圏・熱圏	180	42	
5/27	PM1	FRA		P-EM025	電離圏・熱圏	180	62	横に長く並べたイスでは、両端にみなさんが座る傾向があり、結果座れない人が後ろに立っている
5/27	PM2	FRA		P-EM025	電離圏・熱圏	180	57	
5/27	AM1	FRB		S-SS026	地震学的観測結果の解釈	140	50	発表時間は、最初にアナウンスしてもらう方が良いです
5/27	AM2	FRB		A-HW015	同位体水文学2010	140	70	
5/27	PM1	FRB		A-HW015	同位体水文学2010	140	60	解像度の問題+操作者のPC苦手=遅れる

日付	コマ	会場名		セッション記号	セッション名	定員	参加人数	備考
5/27	PM2	FRB		A-HW015	同位体水文学2010	140	60	
5/27	AM1	国際会議室	★	U-002	Venus Climate Orbiter "AKATSUKI"	300	82	
5/27	AM2	国際会議室	★	U-002	Venus Climate Orbiter "AKATSUKI"	300	65	
5/27	PM1	国際会議室	★	U-002	Venus Climate Orbiter "AKATSUKI"	300	55	人の出入りがやや多い
5/27	PM2	国際会議室	★	U-002	Venus Climate Orbiter "AKATSUKI"	300	50	
5/27	AM1	201A		S-TT071	物理探査	140	30	
5/27	AM2	201A		S-TT071	物理探査	140	40	
5/27	PM1	201A		P-PS010	巨大惑星・衛星・系外惑星	140	60	
5/27	PM2	201A		P-PS010	巨大惑星・衛星・系外惑星	140	40	
5/27	AM1	201B	★	A-AS005	ABC-Asia	140	26	
5/27	AM2	201B	★	A-AS005	ABC-Asia	140	30	
5/27	PM1	201B		M-GI016	地球環境観測データの行方	140	70	
5/27	PM2	201B		M-GI016	地球環境観測データの行方	140	86	
5/27	AM1	202		SIT038	海洋リソスフィアの一生	70	50	立ち見をしている人が目立った．ベルが少々なりにくい．プロジェクターのPC!が上手く作動しない
5/27	AM2	202	★	M-IS001	AE	70	50	立ち見が目立つ
5/27	PM1	202	★	M-IS001	AE	70	35	
5/27	PM2	202	★	M-IS001	AE	70	30	
5/27	AM1	301A		P-PS002	宇宙惑星固体物質	110	55	朝最初のコマなので、少しずつ人が増えていった．プロジェクタのトラブルが多かった
5/27	AM2	301A		P-PS009	隕石解剖学	110	70	特に後半、立ち見が多かった
5/27	PM1	301A		P-PS009	隕石解剖学	110	60	
5/27	PM2	301A		P-PS009	隕石解剖学	110	50	
5/27	AM1	301B		B-PT014	低緯度域の気候変動	130	50	
5/27	AM2	301B		A-AS003	成層圏過程と気候	130	54	
5/27	PM1	301B		A-AS003	成層圏過程と気候	130	60	
5/27	PM2	301B		A-AS003	成層圏過程と気候	130	60	
5/27	AM1	302		S-CG087	プレート収束帯の変形運動	200	120	セッション中に来た人のほとんどが後ろにたって、多くて20名ほどが立っていた
5/27	AM2	302		S-CG087	プレート収束帯の変形運動	200	140	
5/27	PM1	302		S-SS021	内陸地震	200	140	
5/27	PM2	302		S-SS021	内陸地震	200	220	席が足りていませんでした。前の方に数席だけ空席がありましたが、部屋の両サイドと後ろにずらっと人が並んでいたので、ちゃんと歩いて人数確認ができず、目安で部屋の収容人数+20人にしました
5/27	AM1	303		P-EM035	3学会合同プラズマ物理6	200	50	
5/27	AM2	303		P-EM033	3学会合同プラズマ物理7	200	120	
5/27	PM1	303		P-EM033	3学会合同プラズマ物理7	200	110	
5/27	PM2	303		P-EM034	3学会合同プラズマ物理8	200	70	
5/27	AM1	304		H-DS023	緊急地震速報	160	64	9時30分頃から10人途中参加．6番目の講演時には70人以上に増えた
5/27	AM2	304		H-DS023	緊急地震速報	160	75	セッション中の人の出入りは少なかった
5/27	PM1	304		S-SS014	地殻変動	160	130	会場の椅子はほぼ満席．立ち見の人も15人ほど．14時30分頃には35人以上の立ち見者に
5/27	PM2	304		S-SS014	地殻変動	160	80	16時頃から人が減った．最終的には70人くらいに
5/27	AM1	EH7-Sub1		S-TT072	合成開口レーダー	160	85	
5/27	AM2	EH7-Sub1		H-QR010	ヒト－環境系	160	65	時間帯によって来場者が増加することがある．最大で10人程度,立ち見をする人がいた
5/27	PM1	EH7-Sub1		H-QR010	ヒト－環境系	160	65	5-6人程度立ち見をする人がいる
5/27	PM2	EH7-Sub1		H-QR010	ヒト－環境系	160	60	
5/27	AM1	EH7-Sub2		M-IS008	地震・火山電磁波現象	85	45	マイクがないことに講演者から苦情あり
5/27	AM2	EH7-Sub2		S-IT037	レオロジーと物質移動	85	70	AM1と同様、マイクが使用できないkとおに指摘あり（AM1のときより複数人より）
5/27	PM1	EH7-Sub2		S-IT037	レオロジーと物質移動	85	100	
5/27	PM2	EH7-Sub2		S-IT037	レオロジーと物質移動	85	80	
5/27	AM1	EH7-Sub3		A-CC023	雪氷圏と気候	70	50	
5/27	AM2	EH7-Sub3		A-CC021	雪氷学	70	70	
5/27	PM1	EH7-Sub3		A-CC021	雪氷学	70	75	
5/27	PM2	EH7-Sub3		M-IS004	地球流体力学	70	30	
5/28	AM1	101	★	A-AS004	Precipitation products	140	30	
5/28	AM2	101	★	A-AS004	Precipitation products	140	40	
5/28	PM1	101	★	A-AS004	Precipitation products	140	30	
5/28	PM2	101		M-IS014	皆既日食時大気圏-電離圏	140	27	
5/28	AM1	FRA		U-003	南極科学の新時代	180	50	
5/28	AM2	FRA		U-003	南極科学の新時代	180	70	人気のある人の話では100人を超える人が入っていた．座長が時間を守って進行すしようとする気がなく、非常に問題だと思った
5/28	PM1	FRA		S-SS015	地殻構造	180	50	
5/28	PM2	FRA		S-SS015	地殻構造	180	40	
5/28	AM1	FRB		M-SD030	Earth and planetary sciences using small satellites	140	16	
5/28	AM2	FRB		M-SD030	Earth and planetary sciences using small satellites	140	23	
5/28	PM1	FRB		M-GI017	逆問題解析の新展開	140	39	
5/28	PM2	FRB		M-GI017	逆問題解析の新展開	140	39	
5/28	AM1	国際会議室	★	M-AG022	Natural Hazards in Asia	300	50	
5/28	AM2	国際会議室	★	M-AG022	Natural Hazards in Asia	300	65	
5/28	PM1	国際会議室	★	M-AG022	Natural Hazards in Asia	300	40	問題なく進行．部屋の広さの割には人が少ない
5/28	PM2	国際会議室	★	M-AG022	Natural Hazards in Asia	300	35	レーザポインタ・タイムウォッチの電池の容量がなくなる
5/28	AM1	201A		S-GD002	重力－ジオイド	140	60	つめれば全員座れる．少々立ち見が見られた
5/28	AM2	201A		S-GD002	重力－ジオイド	140	50	
5/28	PM1	201A			測地学	140	60	

日付	コマ	会場名		セッション記号	セッション名	定員	参加人数	備考
5/28	PM2	201A			測地学	140	50	
5/28	AM1	201B		A-AS001	大気化学	140	40	
5/28	AM2	201B		A-AS001	大気化学	140	50	
5/28	PM1	201B		A-AS001	大気化学	140	40	
5/28	PM2	201B		A-AS001	大気化学	140	30	
5/28	AM1	202	★	A-EM012	Atmospheric effects of lightening	70	30	活気があった
5/28	AM2	202		A-AS006	赤道ファウンテン	70	40	比較的静かでスムーズに進行が進んだ
5/28	PM1	202		A-AS006	赤道ファウンテン	70	50	午前よりも人が多く集まったが、スムーズに進み、特に問題なく終了した
5/28	PM2	202		A-AS006	赤道ファウンテン	70	30	問題なく進行された
5/28	AM1	301A		P-EM023	太陽圏	110	43	
5/28	AM2	301A		P-CG040	惑星大気圏・電離圏	110	50	
5/28	PM1	301A		P-CG040	惑星大気圏・電離圏	110	40	
5/28	PM2	301A		P-CG040	惑星大気圏・電離圏	110	40	
5/28	AM1	301B		A-CG031	北極域の科学	130	26	
5/28	AM2	301B		A-CG031	北極域の科学	130	38	
5/28	PM1	301B		A-AS002	最新の大気科学	130	45	
5/28	PM2	301B		A-AS002	最新の大気科学	130	42	
5/28	AM1	302		S-CG088	ひずみ集中帯	200	150	
5/28	AM2	302		S-CG088	ひずみ集中帯	200	160	
5/28	PM1	302		S-CG088	ひずみ集中帯	200	120	
5/28	PM2	302		S-CG088	ひずみ集中帯	200	120	
5/28	AM1	303		S-SS011	地震発生の物理・震源過程	200	91	
5/28	AM2	303		S-SS011	地震発生の物理・震源過程	200	133	
5/28	PM1	303		S-SS011	地震発生の物理・震源過程	200	120	
5/28	PM2	303		M-IS003	津波	200	60	
5/28	AM1	304	★	P-PS006	Early Solar System	160	70	
5/28	AM2	304	★	P-PS006	Early Solar System	160	90	
5/28	PM1	304	★	P-PS008	Our earth and other earths	160	90	
5/28	PM2	304	★	P-PS008	Our earth and other earths	160	80	
5/28	AM1	EH7-Sub1		A-PE025	古気候・古海洋	160	58	
5/28	AM2	EH7-Sub1		A-PE025	古気候・古海洋	160	50	
5/28	PM1	EH7-Sub1		A-CC022	氷床・氷河コア	160	57	
5/28	PM2	EH7-Sub1		A-CC022	氷床・氷河コア	160	33	
5/28	AM1	EH7-Sub2		A-HW018	流域水文地質と物質輸送	85	30	
5/28	AM2	EH7-Sub2		A-HW018	流域水文地質と物質輸送	85	40	
5/28	PM1	EH7-Sub2		A-CG034	陸域・海洋相互作用	85	40	
5/28	PM2	EH7-Sub2		A-CG034	陸域・海洋相互作用	85	40	
5/28	AM1	EH7-Sub3		H-QR011	沖積層研究の新展開	70	40	
5/28	AM2	EH7-Sub3		H-QR011	沖積層研究の新展開	70	40	
5/28	PM1	EH7-Sub3		M-IS013	宇宙気候学	70	80	
5/28	PM2	EH7-Sub3		M-IS013	宇宙気候学	70	70	

総参加のべ人数	23393	
国際セッション参加人数	3639	約16%
5月23日	3582	
5月24日	4538	
5月25日	3780	
5月26日	4119	
5月27日	4014	
5月28日	3360	

2010 年度　第 1 回　環境災害対応委員会　議事録（案）
2010 年 5 月 28 日 12:30 - 13:20 203 室
出席委員：松本　淳（委員長：議長）・吾妻　崇（日本活断層学会）・石原正仁（日本気象学会）・卜部厚志（地学団体研究会）・小田啓邦（地球電磁気・地球惑星圏学会）・近藤昭彦（日本リモートセンシング学会）・須貝俊彦（日本地理学会：書記）・田力正好（日本第四紀学会）・田所敬一（日本地震学会）・林　武司（日本水文科学会）・真木雅之（日本水文水資源学会）・宮腰昭暢（日本地熱学会）・目代邦康（地理情報システム学会）（計 13 名）

１．連合における昨年度からの活動（報告事項）
・これまで連合大会では地球人間圏セクションで「人間環境と災害リスク」セッションを開催してきた。今年度の大会では、日本地理学会、地理情報システム学会、日本第四紀学会、日本国際地図学会、日本地質学会の共同コンビナーおよび日本火山学会中村洋一会員が共同コンビナーとなり複数学会の共同での同セッションの開催を実施した。
・今年度の大会では、本委員会主催で「チリ沖地震」緊急ポスターセッションを開催した。
・社員総会資料などにも書かれているように、災害への対応・社会への発信は、連合の活動の柱でもあり、本委員会の活動の活性化が必要である。

２．今後の活動について（審議事項）
★来年度連合大会
①従来の「人間環境と災害リスク」を含め、「環境」の側面からも本委員会が中心となりセクション横断的なセッション提案を充実させる必要が提起され、来年度大会での候補として以下の 3 件があげられた。
・都市型水害（真木）：MP レーダーの活用へむけたプロジェクトの紹介的要素を含め、都市開発などとの関連付けもできると良い。近年の重要なテーマであるので、気象学会からも共催の形で参加することを検討する（石原）。
・宇宙天気（小田）：電離層の乱れが GPS の精度低下をもたらし社会的に影響が大きいことから、パブリックセッションを開催し、啓発活動にも貢献することをめざす。
・人間環境と災害リスク（須貝）：今年度の複数学会開催の成功を活かして、さらに共催する学会を広げることも視野に入れて検討する。
セッション提案は本委員会の中心的責務のひとつであり、上記 3 件については積極的に提案を立案し、詳細についてはさらに次回に検討することとした。
②新たな企画として、「環境研究助成に関する説明会」を開催したい旨が、目代委員から提案があった。目代委員が所属する自然保護協会など、複数の団体では、環境関係の研究助成を実施している。直接研究者と助成者が対話をすることで、より効率的で質の高い研究助成の実現が期待できる。目代が中心となって提案書を作る。
＞科学のための科学助成か？社会のための科学助成かの判断が重要であり、そのような

判断ができる場が望まれる。

★情報交換の活性化

初年度の委員会活動は、残念ながらあまり活発とは言えなかった。その現状への反省を含め、今後の委員会活動方策について議論を行った。

・本委員会が分野横断型の研究窓口となりうるか？　現状ではよくわからない。突発災害予算の獲得なども視野にいれつつ活動の仕方を考えていく。
・委員会の HP を作る：昨年度の懸案であったが実現していない。
　＞広報委員会と連絡をする。委員会議事録を掲載する（松本)。
　＞各学会の災害関係の委員会にリンクを貼る（吾妻)。
・昨年度提案のあった各学協会の活動の個別紹介は JGL の趣旨には合致しないため、むしろトピックス的内容での掲載を本委員会から提案していく。例えば都市型水害など(松本)。
・災害対応委員会のメーリングリストをもっと意見交換の場として活用すべき。

★その他

・連合における本委員会の開催日を、災害関係セッション開催日に充てるなど、工夫してほしいという要望があり、来年度以降は考慮する方針とした。
・次回：来年度の大会のプログラム提案に委員会の意思を反映させるべく、大会時のみでなく 10 月ころに委員会を開催することとした。

正味財産増減計算書見込（22/4～23/3）

一般社団法人　日本地球惑星科学連合　　（単位：円）

科目	前年実績	22/4～23/3 予算	実績（見込） 4-5月実績	未成分振替	実績計	6-3月見込	合計	対予算増減
Ⅰ　一般正味財産増減の部								
１．経常増減の部								
(1) 経常収益								
基本財産運用益	10,000	0		0	0	10,000	10,000	10,000
受取会費	8,690,000	8,600,000	2,530,000	3,784,000	6,314,000	1,681,000	7,995,000	-605,000
事業収益	58,500,000	53,720,000	27,675,500	22,613,000	50,288,500	15,711,500	66,000,000	12,280,000
学術大会事業収益	58,280,000	53,720,000	27,645,500	22,613,000	50,258,500	15,411,500	65,670,000	11,950,000
大会参加料収入	33,692,500	32,000,000	21,823,000	9,026,000	30,849,000	7,409,500	38,258,500	6,258,500
投稿料収入	7,110,500	8,100,000	140,000	8,292,500	8,432,500	125,500	8,558,000	458,000
団体展示料収入	12,750,000	9,300,000	3,300,000	4,200,000	7,500,000	6,300,000	13,800,000	4,500,000
大学インフォメーションパネル収入	250,000	250,000	0	70,000	70,000	630,000	700,000	450,000
書籍展示料収入	810,000	750,000	210,000	510,000	720,000	60,000	780,000	30,000
パンフレットデスク収入	480,000	390,000	0	180,000	180,000	90,000	270,000	-120,000
会議室使用料収入	2,359,000	2,100,000	1,646,000	136,000	1,782,000	796,500	2,578,500	478,500
懇親会収入	441,000	450,000	316,500	138,500	455,000	0	455,000	5,000
その他	387,000	380,000	210,000	60,000	270,000	0	270,000	-110,000
普及事業収益	220,000	0	30,000	0	30,000	300,000	330,000	330,000
ＪＧＬ広告料収入	220,000		30,000	0	30,000	300,000	330,000	330,000
雑収益	40,940	0	0	0	0		0	0
受取利息	14,440			0	0	10,000	10,000	10,000
その他	26,500	0		0	0	8,000	8,000	8,000
経常収益計	67,240,940	62,320,000	30,205,500	26,397,000	56,602,500	17,402,500	74,005,000	11,685,000
(2) 経常費用								
事業費	54,107,702	55,477,000	6,866,213	9,103,964	15,970,177	40,316,000	56,286,177	809,177
給料手当	10,061,550	11,500,000	2,009,483	5,374,000	7,383,483	4,200,000	11,583,483	83,483
法定福利費	1,212,194	1,320,000	217,080	662,588	879,668	510,000	1,389,668	69,668
臨時雇賃金	2,368,500	2,600,000	1,872,000	260,500	2,132,500	480,000	2,612,500	12,500
ホームページ作成費	280,000	240,000	40,000	120,000	160,000	80,000	240,000	0
その他アルバイト	2,088,500	2,360,000	1,832,000	140,500	1,972,500	400,000	2,372,500	12,500
会議費	411,941	680,000	0	0	0	700,000	700,000	20,000
旅費交通費	1,804,600	2,490,000	900,040	501,700	1,401,740	1,100,000	2,501,740	11,740
通勤費	607,800	690,000	280,940	345,500	626,440	70,000	696,440	6,440
交通費	1,196,800	1,800,000	619,100	156,200	775,300	1,030,000	1,805,300	5,300
通信運搬費	1,088,549	1,150,000	186,170	216,309	402,479	830,000	1,232,479	82,479
減価償却費	63,000	2,880,000		166,667	166,667	1,240,000	1,406,667	-1,473,333
消耗什器備品費	66,161	120,000	0	0	0	120,000	120,000	0
消耗品費	312,333	573,000	4,850	225,363	230,213	350,000	580,213	7,213
印刷製本費	8,811,597	6,357,000	59,640	101,190	160,830	7,250,000	7,410,830	1,053,830
プログラム編集費	598,500	600,000	0	0	0	600,000	600,000	0
プログラム印刷製本費	1,200,150	1,200,000	0	0	0	1,420,000	1,420,000	220,000
ポスター製作費	151,983	200,000	0	101,190	101,190	130,000	231,190	31,190
記録費	893,550	900,000	0	0	0	1,680,000	1,680,000	780,000
書籍費	0	50,000	0	0	0	50,000	50,000	0
ＪＧＬ印刷費	5,785,764	3,000,000	0	0	0	2,900,000	2,900,000	-100,000
その他	181,650	407,000	59,640	0	59,640	470,000	529,640	122,640
出展費	131,524	0	0	0	0		0	
賃借料	16,437,668	17,833,000	1,101,102	927,112	2,028,214	15,717,000	17,745,214	-87,786
事務所賃借料	1,490,700	1,671,000	278,460	835,380	1,113,840	557,000	1,670,840	-160
事務機賃借料	434,785	562,000	66,522	91,732	158,254	410,000	568,254	6,254
会場賃借料	12,107,788	13,100,000	693,120	0	693,120	12,000,000	12,693,120	-406,880
設備機材賃借料	2,404,395	2,500,000	63,000	0	63,000	2,750,000	2,813,000	313,000
設営費	3,318,440	3,300,000	0	0	0	3,850,000	3,850,000	550,000
諸謝金	0	40,000	0	0	0	40,000	40,000	0
租税公課	2,000	0	20,200	0	20,200		20,200	20,200
支払手数料	1,018,379	1,000,000	495,648	658,455	1,154,103	270,000	1,424,103	424,103
支払賛助金	210,000	300,000	0	0	0	300,000	300,000	0
委託費	6,673,741	3,334,000	0	10,080	10,080	3,334,000	3,344,080	10,080
システム関連費	6,245,797	2,800,000	0	0	0	2,800,000	2,800,000	0
その他	427,944	534,000	0	10,080	10,080	534,000	544,080	10,080
雑費	115,525	0	0	0	0	25,000	25,000	25,000
管理費	5,626,065	6,671,000	979,491	0	979,491	5,625,000	6,604,491	-66,509
給料手当	2,601,243	2,900,000	519,612	0	519,612	2,260,000	2,779,612	-120,388
法定福利費	262,989	300,000	48,210	0	48,210	276,000	324,210	24,210
会議費	6,840							0
旅費交通費	751,420	700,000	183,970	0	183,970	530,000	713,970	13,970
通勤費	331,940	340,000	105,650	0	105,650	230,000	335,650	-4,350
交通費	419,480	360,000	78,320	0	78,320	300,000	378,320	18,320
通信運搬費	54,974	100,000	23,809	0	23,809	80,000	103,809	3,809
消耗什器備品費	8,056	100,000	0	0	0	100,000	100,000	0
消耗品費	85,655	100,000	91,153	0	91,153	20,000	111,153	11,153
賃借料	592,983	629,000	97,302	0	97,302	533,000	630,302	1,302
事務所賃借料	487,305	471,000	78,540	0	78,540	393,000	471,540	540
事務機賃借料	105,678	158,000	18,762	0	18,762	140,000	158,762	762
諸謝金	1,088,000	1,630,000	0	0	0	1,630,000	1,630,000	0
租税公課	80,200	50,000	0	0	0	50,000	50,000	0
支払手数料	93,705	96,000	15,435	0	15,435	80,000	95,435	-565
委託費	0	66,000	0	0	0	66,000	66,000	0
その他	0	66,000	0	0	0	66,000	66,000	0
雑費	0		0	0	0		0	0
経常費用計	59,733,767	62,148,000	7,845,704	9,103,964	16,949,668	45,941,000	62,890,668	742,668
評価損益等調整前当期経常増減額	7,507,173	172,000	22,359,796	17,293,036	39,652,832	-28,538,500	11,114,332	10,942,332
損益評価等計		0			0		0	0
当期経常増減額	7,507,173	172,000	22,359,796	17,293,036	39,652,832	-28,538,500	11,114,332	10,942,332
２．経常外増減の部							0	0
(1) 経常外収益					0		0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					0		0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	7,507,173	172,000	22,359,796	17,293,036	39,652,832	-28,538,500	11,114,332	10,942,332

A. 財務関連 2010 年大会総括

１）2010 年大会登録状況から収入額

①参加登録費

予算　￥32,000,000

実績　￥38,258,500

②投稿料

予算　￥8,100.000

実績　￥8,558,000

③各種展示料・会合部屋使用料

予算　￥13,620,000

実績　￥18,398,500

①②③合計

予算　￥53,720,000

実績　￥65,215,000

実績-予算　￥11,495,000

２）会費収入を含めると，2009 年度以降以下のようになる．

2009 年度会費収入（実績）　8,690,000 円

2009 年大会収入（実績）　57,839,000 円

2009 年度会費・大会収入計　66,529,000 円

2010 年度会費決済額（本日現在）　7,495,000 円

2010 年度大会収入（登録数より算出）　65,215,000 円

2010 年度会費・大会収入計　72,710,000 円

本年度の予想経常費は　62890668 円　と予想されるので，

11,114,332 円　が当期の経常増減額となる．

３）現在，必要とされる追加分は以下の通り

①AGOS パンフおよび会長の旅費　70 万円

②JGL　300 万円

③人件費　賞与 50 万円

総計　420 万円

したがって，600 万円が余剰金として残ることになる

B. 財務関連検討事項

１）補正予算について

本年度は，現在 1000 万円の収益がある．これを公益法人書類に提出する書類に組み込むことはぜずに，施行し消化する．この際，繰り越しがあってもかまわないが来年度には必ず繰り越し分を事業として使用すると，説明できればいいらしい． 2 年越しの繰り越しは無理.

２）消費税

来年度は，法人化の第四期に入るので消費税が発生し，支払う必要が生じる．収益 1000 万円を超える場合は，必ず生じるので不可避（甲良先生指摘）．しかし，どの部分にどれだけ発生するかは難しいので，鈴木さんが税務署に伺うことにする（危険を伴う）．このとき，支出から人件費を引いた分にある割合をかけた分（たぶん８０％程度）は控除対象となる.消費税が５％とすると約 150 万円程度と見積もられる.10%の場合だと倍になる.

2 年前が基準，法人，2 年間かからず,

３）領収書

クレジット決済の領収書の出し方は，いままでどおりでも法的には可能である．クレジットとして明記してあるのでよい.

しかし，実際の事務手続きなど改良すべき点は多く，web 関連の強化をして，本年度に改善する必要がある.

４）追加分

追加分は以下の通り

①AGOS パンフおよび会長の旅費　70 万円

②JGL　300 万円

③人件費　賞与 50 万円

④消費税　１５０万円（１０％だと 300 万円）

⑤セクション経費　250 万円（各セクション 50 万円）

総計　820 万円はかかることになる.本年度なみの収益があっても 280 万円しか残らない.

消費税

1．収入金額

	第1期（4カ月）	第2期	第3期
会費		8,690,000	6,314,000
大会参加料		33,692,500	30,849,000
投稿料		7,110,500	8,432,000
団体展示料		12,750,000	13,800,000
大学ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝﾊﾟﾈﾙ		250,000	660,000
書籍展示料		810,000	810,000
ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄﾃﾞｽｸ		480,000	240,000
会議室使用料		2,359,000	2,573,000
懇親会収入		441,000	455,000
学協会ｴﾘｱ展示料		240,000	300,000
JGL広告料	100,000	220,000	330,000
メール広告料	480,000		
その他広告代		65,000	
請求書発行手数料		82,000	
計	580,000	67,190,000	64,763,000

2．収入内容

（22．3現在）

会費　正会員（1000円と2000円がある）　5,755名
団体会員　48名
賛助会員　0
合計　5,803名

会員になると大会参加料割引の恩典がある。
JGLの無料発送が受けられる。
連合からの諸情報が受け取れる。

大会参加料　大会への参加料　会員、非会員で差がある。

投稿料　投稿料

団体展示料　団体展示ブース使用料
大学ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝﾊﾟﾈﾙ　展示ﾊﾟﾈﾙ使用料
書籍展示料　書籍展示スペース使用料
ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄﾃﾞｽｸ　ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄﾃﾞｽｸ使用料
会議室使用料　会議室使用料
学協会ｴﾘｱ展示料　展示ﾊﾟﾈﾙ使用料

懇親会収入　懇親会費とほぼ同額

JGL広告料　広告料
メール広告料　広告料
その他広告料　広告料

請求書発行手数料　手数料

大会経費見直し(案)_0621

	費目	内容	備考	合計
追加	印刷製本費	プログラム印刷製本費 英文プログラム印刷費 モノクロ50ページ、表紙カラー、1000冊		¥300,000
		プログラム編集費 英文プログラムデータ編集		¥100,000
		その他 ユニオンセッション冊子 モノクロ50ページ、300冊		¥150,000
	通信運搬費 (発送費)	事前発送増加分(早期登録者、投稿者) JGL・名札・CD-ROM・大会プログラム リーフレット・割引券の等同梱作業含む @210	900,000 (3,556名→4,000名)	¥100,000
	委託費 (固定資産)	システム関連 大会当日登録システム開発費 (簡易パスワード検索, 参加登録証明書, 当日現金決済, 領収書発行)	見込み	¥500,000
	賃借料	会場賃借料 ネット回線使用料追加 1階登録者用、2階会場	1F1回線→ 1F2、2F1回線	¥170,000
		会場使用料金 新築会場追加 1階 会場2部屋 6日間	140人X2部屋 (価格、数未定)	¥1,000,000
		設備機材賃借料 PCレンタル追加 10台X3日間		¥70,000
	臨時雇用賃金	大会アルバイト 受付アルバイト追加 10人X3日間	8,000X10人X3日間	¥240,000
			追加合計	¥2,630,000
削減	印刷製本費	記録費 CD-ROM製作費	2010予算 900,0000	¥1,680,000
	賃借料	会場使用料金 7ホール別室 使用料金 ¥700,000 設営費、撤去費 ¥280,000 光熱水費 ¥40,000	新築会場と差替え	¥1,020,000
			削減合計	¥2,700,000
			差引合計	**¥-70,000**

平成 22 年 7 月 12 日

地球惑星科学連合
関係各位

株式会社 JTB コミュニケーションズ
企画局 IT 事業部 野田 年基

新システム開発に対する残件ついてのご報告

拝啓　ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご芳情を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたびの「新システム」の開発残件に際し 6 月末を完了目標とさせて頂いていた件ですが、こちらの対応が間際対応ばかりになってしまい事務局を含め多大なる御迷惑をおかけしまして深くお詫び申し上げます。改めまして残件の整理と進捗報告をさせて頂き運用へのスムーズな移行を進められるよう、万全の体制で対処させて頂く所存ですので、ご理解賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

残件項目および納品スケジュール

	残件項目	内訳	進捗および予定
1	入金管理･登録件数一覧	入金状況の管理を行う 登録件数の一覧表を表示する	5 月 12 日完
2	プログラム編成管理	会場、コマ割登録	7 月 30 日
3	会合登録、団体会員登録	会合予約の申込を新システムに取込む 団体会員区分を設定する	7 月 30 日
4	取扱説明書	事務局およびコンビーナが行う画面の取扱説明書	7 月 30 日

１．入金管理･登録件数一覧は、5 月 12 日に御提供完了となりました。

2. プログラム編成管理については、事務局の御担当者とやり取りを行い、最終画面案の提示を残としている状況です。

３．会合登録は、2に絡むため合わせて最終画面案の提示後に進めさせて頂く予定です。
団体会員登録は、ご提示案通りのシステムを御提供させて頂きましたが、御要望があり改修後の御提供予定となっております。

4. 取扱説明書は、日本語版については全て完了しており英語版の英訳を頂いてからの対応予定となっております。

以上

第4期科学技術基本計画および第3次男女共同参画基本計画への要望
「科学技術分野での男女共同参画の推進に向けての要望」

平成22年8月　日

男女共同参画学協会連絡会

正式加盟学協会

1. 応用物理学会
2. 化学工学会
3. 高分子学会
4. 電子情報通信学会
5. 日本宇宙生物科学会
6. 日本化学会
7. 日本原子力学会
8. 日本細胞生物学会
9. 日本女性科学者の会
10. 日本植物生理学会
11. 日本数学会
12. 日本生化学会
13. 日本生態学会
14. 日本生物物理学会
15. 日本生理学会
16. 日本蛋白質科学会
17. 日本天文学会
18. 日本動物学会
19. 日本発生生物学会
20. 日本比較内分泌学会
21. 日本物理学会
22. 日本分子生物学会
23. 日本森林学会
24. 地球電磁気・地球惑星圏学会
25. 日本神経科学学会
26. 日本バイオイメージング学会
27. 日本糖質学会
28. 日本育種学会
29. 日本結晶学会
30. 日本地球惑星科学連合
31. 日本繁殖生物学会
32. 生態工学会
33. 錯体化学会
34. 日本進化学会
35. 日本遺伝学会
36. 日本建築学会
37. 種生物学会
38. 日本獣医学会

オブザーバー加盟学協会

39. 日本質量分析学会
40. 日本魚類学会
41. 日本畜産学会

1. 映像情報メディア学会
2. 自動車技術会
3. 照明学会
4. 精密工学会
5. 地盤工学会
6. 電気化学会
7. 日本データベース学会
8. 日本液晶学会
9. 日本磁気学会
10. 日本火災学会
11. 日本機械学会
12. 日本金属学会
13. 日本女性技術者フォーラム
14. 日本鉄鋼協会
15. 日本分析化学会
16. 土木学会
17. 日本植物学会
18. 石油学会
19. 日本科学者会議
20. 日本バイオインフォマティクス学会
21. 日本水産増殖学会
22. 日本表面科学会
23. 日本鳥学会
24. 日本放射光学会
25. 電気学会
26. 日本木材学会

第4期科学技術基本計画および第3次男女共同参画基本計画への要望
「科学技術分野での男女共同参画の推進に向けての要望」

平成２２年８月　日
男女共同参画学協会連絡会

第3期科学技術基本計画と第2次男女共同参画基本計画に基づく両立支援などの施策により、女性研究者の活躍の場は少しずつ広がりつつあります。しかしながら、日本の女性研究者比率は、いまだ13.0%（2009年）に留まり、世界的に見ても極めて少ない状況に変わりはありません。科学技術活動やイノベーション創出の推進においては、人材の多様化、創造的な環境の整備、少数者にも配慮した公平・透明な意思決定プロセスなどが重要です。従って科学技術分野においても男女共同参画促進は、女性研究者を増やすという数値だけの問題にとどまらず、研究目標・重要分野の設定や研究費配分などの意思決定の場への参画を伴うものでなくてはなりません。このためには、第3期科学技術基本計画と第2次男女共同参画基本計画で提示された数値目標の着実な推進とともに、リーダーとなる女性研究者育成を進めるための制度整備が必要です。

男女共同参画学協会連絡会は、女性研究者の参画加速の観点から、第4期科学技術基本計画および第3次男女共同参画基本計画におきまして、優れた人材の発掘・育成・登用を目的として、以下の具体的な項目が盛り込まれ、国の推進体制の強化が図られますよう、要望いたします。

１）女性研究者の採用における数値目標設定と実績の公表

女性研究者の参画加速と意思決定機関への参画推進のためには、産官学のあらゆる分野において、女性研究者の採用、昇格の促進、意思決定の場への積極的登用が重要です。第3期科学技術基本計画で掲げられた数値目標(女性の採用割合を自然科学系全体として25%（理学系20%、工学系15%、農学系30%))の着実な推進を要望いたします。さらに各研究機関・国公私立大学等においては、短期・中期・長期的な数値目標を設定し、女性研究者の採用や登用の進捗を定期的に調査・分析・公表すること、また公募に際しては「女性研究者の応募を奨励する旨を明記し、女性研究者の応募比率・採択比率を公開すること」を要望いたします。

２）女性研究者の研究室主宰者への登用促進、リーダー育成プログラムの継続と拡充

これまで、第3期科学技術基本計画と第2次男女共同参画基本計画に基づく施策により、女性研究者の活動の裾野を広げることには一定の効果が見られつつあります。しかしながら今後、女性研究者による研究・教育の一層の促進とともに、研究費配分や人材の採用・登用などに係る意思決定機関への参画を推進するためには、女性研究者リーダーを育成し、研究室主宰者(教授、准教授、主任研究員、PI(principal Investigator)等)へ登用することが重要になります。このためには、若手・中堅女性研究者に、リーダー育成プログラムを提供し、

さらに上位職へチャレンジできる機会を与えることが必要です。第3期科学技術基本計画の最後となる平成21年度に開始された施策である「女性研究者養成システム改革加速」プログラムの継続と更なる拡充を要望いたします。

３）次世代女性研究者育成プログラムの推進

日本では、大学の理工系学部・大学院の女子学生の割合が諸外国に比較して低く、女性研究者が少ない原因となっています。女子学生の理工系学部への進学率を高めるためには、小・中・高校生を対象にした実験、講座を含むチャレンジ・キャンペーンとともに、理工系を選択する上で参考となるロールモデルの提示が必要です。女性研究者・技術者、大学生・大学院生と女子中高生の間での交流機会の提供に有効である「女子中高生の理系進路選択支援」事業の継続と推進を要望いたします。

４）研究と出産・育児・介護等の両立支援と、これに係る雇用条件の公開促進

日進月歩の変化が著しい科学技術分野においては、育児中も研究活動を継続することを強く望む研究者が少なくありません。また、出産・育児・介護のため中断したキャリアからの復帰を目指す研究者も多くいます。これら研究者の活躍を促進するために、RPD特別研究員制度の継続とともに柔軟な雇用形態・人事制度の確立、研究サポート体制の整備など制度の確立を要望いたします。さらに、各研究機関・大学等においては人事の公募に際して研究者が出産・育児・介護等のライフイベントに遭遇した場合に、育児休業制度や介護休業制度が利用できるかどうかを明示することを義務づけるよう要望いたします。

教育問題検討委員会からのお願い

連合が発足し、二期目となりましたが、教育問題検討委員会の構成についてお考えいただきたいことがあります。従来は各学会からの推薦委員で成り立っており、この方法を継続することも 5 月の教育問題検討委員会でも確認されております。

先日、教育問題検討委員の確認のために名簿をいただきましたところ、連合に未登録の方が少なからず見受けられました。この方たちへの今後の「呼びかけ」並びに「呼びかけても登録していただけない場合の処遇」につきまして理事会でお話し下されば幸いです。

他の部門でも未登録の方がいらっしゃると聞いております。
呼びかけ時期やその方法については、各委員会任せではなくある程度統一的に実施した方が良いと考えております。

以上よろしくお願い致します。

補足＊教育問題検討委員会もですが、サイエンスボードも問題です。

教育問題検討委員長　畠山

〈 セクション別　代議員名簿 〉

	登録区分	理事	氏名	所属
1	宇宙惑星科学		家森　俊彦	京都大学大学院理学研究科付属地磁気世界資料解析センター
2	宇宙惑星科学	●	大村　善治	京都大学生存圏研究所
3	宇宙惑星科学		佐々木　晶	国立天文台RISE月探査プロジェクト
4	宇宙惑星科学	●	高橋　幸弘	北海道大学・大学院理学院・宇宙理学専攻
5	宇宙惑星科学	●	田近　英一	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻
6	宇宙惑星科学		中川　義次	神戸大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻
7	宇宙惑星科学		長妻　努	独立行政法人　情報通信研究機構
8	宇宙惑星科学		永原　裕子	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻
9	宇宙惑星科学		中村　昭子	神戸大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻
10	宇宙惑星科学	●	中村　正人	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所
11	宇宙惑星科学		藤井　良一	名古屋大学
12	宇宙惑星科学		藤本　正樹	宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部
13	宇宙惑星科学		臼本　尚義	北海道大学理学研究院自然史科学部門
14	宇宙惑星科学		渡邊　誠一郎	名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻
15	大気海洋・環境科学		大手　信人	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻
16	大気海洋・環境科学		河宮 未知生	海洋研究開発機構
17	大気海洋・環境科学		北　和之	茨城大学理学部
18	大気海洋・環境科学		近藤　豊	東京大学先端科学技術研究センター
19	大気海洋・環境科学	●	佐藤　薫	東京大学　大学院理学系研究科　地球惑星科学専攻
20	大気海洋・環境科学		嶋田　純	熊本大学大学院自然科学研究科
21	大気海洋・環境科学		杉田 倫明	筑波大学大学院生命環境科学研究科地球環境科学専攻
22	大気海洋・環境科学		鈴木　啓助	信州大学理学部物質循環学科
23	大気海洋・環境科学		多田　隆治	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻
24	大気海洋・環境科学		立川　康人	京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻
25	大気海洋・環境科学		田中　博	筑波大学計算科学研究センター
26	大気海洋・環境科学	●	津田　敏隆	京都大学生存圏研究所
27	大気海洋・環境科学		中島　映至	東京大学気候システム研究センター
28	大気海洋・環境科学		中塚　武	名古屋大学環境学研究科
29	大気海洋・環境科学		真木　雅之	防災科学技術研究所
30	地球人間圏科学		岡部　篤行	青山学院大学総合文化政策学部
31	地球人間圏科学	●	小口　高	東京大学空間情報科学研究センター
32	地球人間圏科学		奥村　晃史	広島大学大学院文学研究科
33	地球人間圏科学		佐竹　健治	東京大学地震研究所
34	地球人間圏科学		須貝　俊彦	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻
35	地球人間圏科学		鈴木　毅彦	首都大学東京都市環境学部
36	地球人間圏科学		春山 成子	三重大学大学院生物資源学研究科共生環境学専攻
37	地球人間圏科学		氷見山　幸夫	北海道教育大学教育学部
38	地球人間圏科学	●	松本　淳	首都大学東京大学院都市環境科学研究科地理環境科学専攻
39	地球人間圏科学		目代　邦康	自然保護助成基金
40	地球人間圏科学		渡部　芳夫	独立行政法人産業技術総合研究所深部地質環境研究コア
41	固体地球科学		井口　正人	京都大学防災研究所火山活動研究センター
42	固体地球科学		石川　尚人	京都大学大学院人間・環境学研究科
43	固体地球科学	●	石渡　明	東北大学東北アジア研究センター
44	固体地球科学		井出　哲	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻
45	固体地球科学		伊藤　谷生	千葉大学大学院理学研究科地球科学コース
46	固体地球科学	●	岩森　光	東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻
47	固体地球科学	●	ウオリス　サイモン	名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻
48	固体地球科学		歌田　久司	東京大学地震研究所
49	固体地球科学	●	大谷　栄治	東北大学大学院理学研究科地学専攻
50	固体地球科学		川勝　均	東京大学地震研究所
51	固体地球科学	●	木村　学	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻
52	固体地球科学		鷺谷　威	名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山・防災研究センター
53	固体地球科学		篠原　宏志	産業技術総合研究所地質調査総合センター
54	固体地球科学		清水　洋	九州大学大学院理学研究院附属地震火山観測研究センター
55	固体地球科学		田部井　隆雄	高知大学理学部応用理学科
56	固体地球科学	●	富樫　茂子	産業技術総合研究所

〈 セクション別　代議員名簿 〉

	登録区分	理事	氏名	所属
57	固体地球科学		中田　節也	東京大学地震研究所
58	固体地球科学		名和　一成	産業技術総合研究所
59	固体地球科学		長谷川　昭	東北大学大学院理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター
60	固体地球科学	●	浜野　洋三	海洋研究開発機構地球内部ダイナミクス領域
61	固体地球科学		平原　和朗	京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地球物理学教室
62	固体地球科学		深畑　幸俊	京都大学防災研究所
63	固体地球科学		藤井　敏嗣	環境防災総合政策研究機構
64	固体地球科学	●	古村　孝志	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター
65	固体地球科学		古屋　正人	北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門
66	固体地球科学		丸山　茂徳	東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻
67	固体地球科学		山岡　耕春	名古屋大学環境学研究科附属地震火山・防災研究センター
68	固体地球科学		山崎　俊嗣	産業技術総合研究所地質調査総合センター地質情報研究部門
69	固体地球科学		吉田　武義	東北大学大学院理学研究科地学専攻地球惑星物質科学科
70	地球生命科学		井龍　康文	名古屋大学環境学研究科地球環境科学専攻地質・地球生物学講座
71	地球生命科学		遠藤　一佳	東京大学大学院理学系研究科
72	地球生命科学		大河内　直彦	海洋研究開発機構
73	地球生命科学		掛川 武	東北大学大学院理学研究科地学専攻
74	地球生命科学	●	川幡　穂高	東京大学　大学院新領域創成科学研究科，海洋研究所
75	地球生命科学		北里 洋	独立行政法人海洋研究開発機構海洋・極限環境生物圏領域
76	地球生命科学		北村　晃寿	静岡大学理学部地球科学教室
77	地球生命科学	●	西　弘嗣	東北大学総合学術博物館
78	地球惑星科学総合		古宇田　亮一	産業技術総合研究所産学官連携推進部門
79	地球惑星科学総合		小松　美加	東京大学出版会
80	地球惑星科学総合		佐野　有司	東京大学海洋研究所先端海洋システム研究センター
81	地球惑星科学総合		芝川　明義	大阪府立花園高等学校
82	地球惑星科学総合		数越　達也	兵庫県立神戸高等学校
83	地球惑星科学総合		瀧上　豊	関東学園大学
84	地球惑星科学総合		中井　睦美	大東文化大学文学部教育学科
85	地球惑星科学総合	●	畠山　正恒	聖光学院中学高等学校
86	地球惑星科学総合		福島　隆史	TBSテレビ
87	地球惑星科学総合		宮嶋　敏	埼玉県立深谷第一高等学校
88	地球惑星科学総合		山本　高司	川崎地質株式会社

理事・監事名簿

理事会

NO	役職	担当	氏名	所属	任期
1	理事	代表理事　会長	木村　学	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻	平成24年5月社員総会
2	理事	副会長	浜野　洋三	海洋研究開発機構地球内部ダイナミクス領域	平成24年5月社員総会
3	理事	副会長	大谷　栄治	東北大学大学院理学研究科地学専攻	平成24年5月社員総会
4	理事	副会長	津田　敏隆	京都大学生存圏研究所	平成24年5月社員総会
5	理事	企画担当理事	中村　正人	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所	平成24年5月社員総会
6	理事	総務担当理事	大村　善治	京都大学生存圏研究所	平成24年5月社員総会
7	理事	財務担当理事	西　弘嗣	東北大学学術資源研究公開センター東北大学総合学術博物館	平成24年5月社員総会
8	理事	広報普及担当理事	田近　英一	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻	平成24年5月社員総会
9	理事	国際学術担当理事	石渡　明	東北大学東北アジア研究センター	平成24年5月社員総会
10	理事	環境・災害担当理事	松本　淳	首都大学東京大学院都市環境科学研究科地理環境科学専攻	平成24年5月社員総会
11	理事		富樫　茂子	産業技術総合研究所	平成24年5月社員総会
12	理事		高橋　幸弘	北海道大学大学院理学院宇宙理学専攻	平成24年5月社員総会
13	理事		佐藤　薫	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻	平成24年5月社員総会
14	理事		小口　高	東京大学空間情報科学研究センター	平成24年5月社員総会
15	理事		岩森　光	'東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻	平成24年5月社員総会
16	理事		ウォリス　サイモン		平成24年5月社員総会
17	理事		古村　孝志	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター	平成24年5月社員総会
18	理事		川幡　穂高	大気海洋研究所海洋底科学部門	平成24年5月社員総会
19	理事		畠山　正恒	聖光学院中学高等学校	平成24年5月社員総会

監事

	監事		鈴木　善和	弁護士	平成26年5月社員総会
	監事		松浦　充宏	統計数理研究所	平成26年5月社員総会

宇宙惑星科学セクション　（広報普及/学術出版担当委員選出中）

プレジデント		永原　裕子	東京大学
バイスプレジデント		中村　正人	宇宙航空研究開発機構
		井田　　茂	東京工業大学
ボードメンバー	国際学術委員	大村　善治	京都大学
		小野　高幸	東北大学
		常田　佐久	国立天文台
	幹事	長妻　努	情報通信研究機構
		羽田　　亨	九州大学
		林　　祥介	神戸大学
		藤井　良一	名古屋大学
		圦本　尚義	北海道大学
		渡部　潤一	国立天文台
		渡邊誠一郎	名古屋大学
	プログラム編成委員	中本　泰史	東京工業大学

代議員	家森　俊彦	京都大学
	大村　善治	京都大学
	佐々木　晶	国立天文台
	高橋　幸弘	北海道大学
	田近　英一	東京大学
	中川　義次	神戸大学
	長妻　努	情報通信研究機構
	永原　裕子	東京大学
	中村　昭子	神戸大学
	中村　正人	宇宙航空研究開発機構
	藤井　良一	名古屋大学
	藤本　正樹	宇宙航空研究開発機構
	圦本　尚義	北海道大学
	渡邊　誠一郎	名古屋大学

大気海洋・環境科学セクション

プレジデント		中島　映至	東京大学
バイスプレジデント	学術出版委員	津田　敏隆	京都大学
		花輪　公雄	東北大学
ボードメンバー		沖　理子	宇宙航空研究開発機構
	幹事･総務	川合　義美	海洋研究開発機構
		神沢　　博	名古屋大学
		鬼頭　昭雄	気象庁気象研究所
		近藤　　豊	東京大学
		杉田　倫明	筑波大学
	国際学術委員	多田　隆治	東京大学
		知北　和久	北海道大学
		日比谷紀之	東京大学
	広報普及委員	松本　淳	首都大学東京
	プログラム編成委員	村山　泰啓	情報通信研究機構

代議員	大手　信人	東京大学
	河宮 未知生	海洋研究開発機構
	北　和之	茨城大学
	近藤　豊	東京大学
	佐藤　薫	東京大学
	嶋田　純	熊本大学
	杉田 倫明	筑波大学
	鈴木　啓助	信州大学
	多田　隆治	東京大学
	立川　康人	京都大学
	田中　博	筑波大学
	津田　敏隆	京都大学
	中島　映至	東京大学
	中塚　武	名古屋大学
	真木　雅之	防災科学技術研究所

地球人間圏科学セクション

プレジデント		岡部　篤行	青山学院大学
バイスプレジデント		安成　哲三	名古屋大学
		碓井　照子	奈良大学
ボードメンバー		安仁屋政武	筑波大学
		岡本　耕平	名古屋大学
	プログラム編成委員	奥村　晃史	広島大学
		小野　有五	北海道大学
	学術出版委員	佐竹　健治	東京大学
	国際学術委員	春山　成子	三重大学
	広報普及委員	氷見山幸夫	北海道教育大学
	幹事	松本　淳	首都大学東京
		矢ケ崎典隆	東京学芸大学
		若土　正曉	北海道大学

代議員	岡部　篤行	青山学院大学
	小口　高	東京大学
	奥村　晃史	広島大学
	佐竹　健治	東京大学
	須貝　俊彦	東京大学
	鈴木　毅彦	首都大学東京
	春山 成子	三重大学
	氷見山　幸夫	北海道教育大学
	松本　淳	首都大学東京
	目代　邦康	自然保護助成基金
	渡部　芳夫	産業技術総合研究所

固体地球科学セクション

プレジデント		藤井　敏嗣	環境防災総合政策研究機構
バイスプレジデント		長谷川　昭	東北大学
		伊藤　谷生	千葉大学
ボードメンバー		入舩　徹男	愛媛大学
	幹事	岩森　光	東京大学大学
		歌田　久司	東京大学
		浦辺　徹郎	東京大学
		大久保修平	東京大学
	学術出版委員	川勝　均	東京大学
	プログラム編成委員	木村　純一	海洋研究開発機構
	国際学術委員	Simon Wallis	名古屋大学
		佐藤　春夫	東北大学
		清水　洋	九州大学
	広報普及委員	成瀬　元	千葉大学
		平原　和朗	京都大学
		廣瀬　敬	東京工業大学
		日置　幸介	北海道大学
		松原　聰	国立科学博物館
		山路　敦	京都大学

代議員	井口　正人	京都大学
	石川　尚人	京都大学
	石渡　明	東北大学
	井出　哲	東京大学
	伊藤　谷生	千葉大学
	岩森　光	東京工業大学
	Simon Wallis	名古屋大学
	歌田　久司	東京大学
	大谷　栄治	東北大学
	川勝　均	東京大学
	木村　学	東京大学
	鷺谷　威	名古屋大学
	篠原　宏志	産業技術総合研究所
	清水　洋	九州大学
	田部井　隆雄	高知大学
	富樫　茂子	産業技術総合研究所
	中田　節也	東京大学
	名和　一成	産業技術総合研究所
	長谷川　昭	東北大学
	浜野　洋三	海洋研究開発機構
	平原　和朗	京都大学
	深畑　幸俊	京都大学
	藤井　敏嗣	環境防災総合政策研究機構
	古村　孝志	東京大学
	古屋　正人	北海道大学
	丸山　茂徳	東京工業大学
	山岡　耕春	名古屋大学
	山崎　俊嗣	産業技術総合研究所
	吉田　武義	東北大学

地球生命科学セクション

プレジデント		北里　洋	海洋研究開発機構
バイスプレジデント	国際学術委員	小林　憲正	横浜国立大学
		川幡　穂高	東京大学
ボードメンバー	幹事	生形　貴男	静岡大学
	副幹事	高野　淑識	海洋研究開発機構
		稲垣　史生	海洋研究開発機構
	国際学術委員	遠藤　一佳	東京大学
	広報普及委員	大河内直彦	海洋研究開発機構
		加藤　憲二	静岡大学
		奈良岡　浩	九州大学
		西　弘嗣	東北大学
		真鍋　真	国立科学博物館
	プログラム編成委員	山岸　明彦	東京薬科大学
	学術出版委員	井龍　康文	名古屋大学
	総務	掛川　武	東北大学

代議員	井龍　康文	名古屋大学
	遠藤　一佳	東京大学
	大河内　直彦	海洋研究開発機構
	掛川 武	東北大学
	川幡　穂高	東京大学
	北里 洋	海洋研究開発機構
	北村　晃寿	静岡大学
	西　弘嗣	東北大学

委員会名簿(2010/7/23)

経営企画会議				
1	会長/経営企画会議		木村　学	東京大学
2	副会長/経営企画会議		浜野　洋三	海洋研究開発機構
3	副会長/経営企画会議		大谷　栄治	東北大学
4	副会長/経営企画会議		津田　敏隆	京都大学
5	企画担当理事/経営企画会議		中村　正人	宇宙航空研究開発機構
6	総務担当理事/経営企画会議		大村　善治	京都大学
7	財務担当理事/経営企画会議		西　弘嗣	東北大学
8	広報普及担当理事/経営企画会議		田近　英一	東京大学
9	国際学術担当理事/経営企画会議		石渡　明	東北大学
総務委員会				
1	委員長	総務担当理事	大村　善治	京都大学
2	副委員長		吉田　武義	東北大学
3	副委員長		中村　正人	宇宙航空研究開発機構
4	事務局長		岩上　直幹	東京大学
5			近藤　忠	大阪大学
6			篠原　雅尚	東京大学
7			棚部　一成	東京大学
8			中島　健介	九州大学
9			西村　浩一	名古屋大学
10			野村　文明	（株）アイ・エヌ・エー
11			平田　岳史	京都大学
12			松尾　公一	日鉄鉱業株式会社
13			大湊　隆雄	東京大学
14			川合　義美	海洋研究開発機構
15			掛川　武	東北大学
総務委員会　会員管理小委員会				
1	委員長		中島　映至	東京大学
2			竹川　暢之	東京大学
3			笹田　政克	応用地質株式会社
4			吉田　武義	東北大学
5			北　和之	茨城大学
財務委員会				
1	委員長	財務担当理事	西　弘嗣	東北大学
2	副委員長		小原　隆博	宇宙航空研究開発機構
3	副委員長		（未定）	
4			上野　健一	筑波大学
5			及川　純	東京大学
6			木下　正高	海洋研究開発機構
7			七山　太	産業技術総合研究所
8			樋口　篤志	千葉大学
9			南島　正重	東京都立小石川高等学校
10			生形　貴男	静岡大学理学部
広報普及委員会				
1	委員長	広報普及担当理事	田近　英一	東京大学
2	副委員長		原　辰彦	建築研究所
3			阿部　彩子	東京大学
4	幹事（連合大会等における普及活動担当）		安藤　寿男	茨城大学
5			内山　高	山梨県環境科学研究所
6			大木　聖子	東京大学
7		地球人間圏セクション	奥村　晃史	広島大学
8			梶井　克純	首都大学東京
9			久利　美和	東北大学
10			黒石　裕樹	国土地理院
11			斉藤　眞	産業技術総合研究所
12	幹事（プレスリリース担当）		高橋　幸弘	北海道大学
13			瀧上　豊	関東学園大学
14	幹事（ウェブ担当）		橘　省吾	東京大学
15			谷　篤史	大阪大学
16			辻村　真貴	筑波大学
17	幹事（ＪＧＬ編集担当）		東宮　昭彦	産業技術総合研究所
18			西尾　文彦	千葉大学
19	幹事（メールニュース担当）		坂野　靖行	産業技術総合研究所
20			水垣　桂子	産業技術総合研究所
21			川合　義美	海洋研究開発機構
22	幹事（社会連携担当）		宮本　英昭	東京大学
23			山田　耕	神戸大学
24			吉本　和生	横浜市立大学

委員会名簿(2010/7/23)

25			渡辺　俊樹	名古屋大学
26			若林　芳樹	首都大学東京
27		大気海洋・環境科学	松本　淳	首都大学東京
28		地球人間圏セクション	氷見山　幸夫	北海道教育大学
29		固体地球科学セクション	成瀬　元	千葉大学
30		地球生命科学セクション	大河内　直彦	海洋研究開発機構
広報普及委員会　JGL編集小委員会				
1	委員長		田近　英一	東京大学
2			原　辰彦	建築研究所
3			阿部　彩子	東京大学
4			安藤　寿男	茨城大学
5			内山　高	山梨県環境科学研究所
6			大木　聖子	東京大学
7			奥村　晃史	広島大学
8			梶井　克純	首都大学東京
9			久利　美和	東北大学
10			黒石　裕樹	国土地理院
11			斉藤　眞	産業技術総合研究所
12			高橋　幸弘	北海道大学
13			瀧上　豊	関東学園大学
14			橘　省吾	東京大学
15			谷　篤史	大阪大学
16			辻村　真貴	筑波大学
17			東宮　昭彦	産業技術総合研究所
18			西尾　文彦	千葉大学
19			坂野　靖行	産業技術総合研究所
20			水垣　桂子	産業技術総合研究所
21			川合　義美	海洋研究開発機構
22			宮本　英昭	東京大学
23			山田　耕	神戸大学
24			吉本　和生	横浜市立大学
25			渡辺　俊樹	名古屋大学
26			若林　芳樹	首都大学東京
27		大気海洋・環境科学	松本　淳	首都大学東京
28		地球人間圏セクション	氷見山　幸夫	北海道教育大学
29		固体地球科学セクション	成瀬　元	千葉大学
30		地球生命科学セクション	大河内　直彦	海洋研究開発機構
環境・災害対応委員会				
1	委員長	環境・災害担当理事	松本　淳	首都大学東京
2	副委員長		須貝　俊彦	東京大学
3			榊原　正幸	愛媛大学
4			林　武司	秋田大学
5			後藤　秀昭	広島大学
6			後藤　和久	千葉工業大学
7			西村　浩一	名古屋大学
8			近藤　昭彦	千葉大学
9			陶野　郁雄	国立環境研究所
10			宇根　寛	国土交通大学校
11			梶井　克純	首都大学東京
12			宮越　昭暢	産業技術総合研究所
13			江守　正多	国立環境研究所
14			黒木　貴一	福岡教育大学
15			小荒井　衛	国土地理院
16			杉田　倫明	筑波大学
17			大野　博之	（株）環境地質技術部
18			目代　邦康	自然保護助成基金
19			石原　正仁	気象研究所
20			卜部　厚志	新潟大学
21			村山　良之	山形大学
22			長岡　信治	長崎大学
23			田力　正好	地震予知総合研究振興会
24			横山　俊治	高知大学
25			田所　敬一	名古屋大学
26			真木　雅之	防災科学技術研究所
27			中筋　章人	国際航業（株）
28			中村　洋一	宇都宮大学教育学部
29			小田　啓邦	産業技術総合研究所
30			吾妻　崇	産業技術総合研究所

委員会名簿(2010/7/23)

男女共同参画委員会				
1	委員長	社会参画担当理事	富樫　茂子	産業技術総合研究所
2	副委員長		小口　千明	埼玉大学
3	副委員長		坂野井　和代	駒澤大学
4			吉田　武義	東北大学
5			阿部　隆	日本女子大学
6			藤縄　明彦	茨城大学
7			清野　直子	気象研究所
8			田島　文子	ミュンヘン大学
9			山野　誠	東京大学
10			薮崎　志穂	立正大学
11			大村　亜希子	東京大学
12			天川　裕史	東京大学
13			佐々木　緑	広島修道大学
14			山室　真澄	東京大学
15			堀　利栄	愛媛大学
16			川合　義美	海洋研究開発機構
17			渡邊　眞紀子	首都大学東京
18			小川　佳子	会津大学
19			斉藤　享治	埼玉大学
20			紺屋　恵子	海洋研究開発機構
21			新井　真由美	日本科学未来館
22			前田　佐和子	京都女子大学
キャリア支援委員会				
1	委員長		栗田　敬	東京大学
2	副委員長		伊藤　谷生	千葉大学
3	副委員長		市原　美恵	東京大学
4		連合副会長	浜野　洋三	海洋研究開発機構
5			榎森　啓元	秀明大学
6			小口　千明	埼玉大学
7			北里　洋	海洋研究開発機構
8			坂野井　和代	駒澤大学
9			佐々木　和彦	応用地質株式会社
10			佐藤　英人	帝京大学
11			末吉　哲雄	海洋研究開発機構
12			杉田　倫明	筑波大学
13		連合広報・普及活動委員会委員	高橋　幸弘	北海道大学
14		連合広報普及担当理事	田近　英一	東京大学
15		連合広報・普及活動委員会委員	橘　省吾	東京大学
16			津野　宏	横浜国立大学
17		連合社会参画担当理事	富樫　茂子	産業技術総合研究所
18			永原　裕子	東京大学
19		連合広報・普及活動委員会副委員長	原　辰彦	建築研究所
20			藤光　康宏	九州大学
21			松倉　公憲	定年退職後所属無し（筑波大学名誉教授）
22			持田　陸宏	名古屋大学
23			山田　耕	神戸大学
24			渡邉　公一郎	九州大学
25			渡辺　秀文	東京都総務局総合防災部
	オブザーバー	連合会長	木村　学	東京大学
	オブザーバー	連合副会長	大谷　栄治	東北大学
	オブザーバー	連合総務担当理事	大村　善治	京都大学
教育問題検討委員会				
1	委員長		畠山　正恒	聖光学院中学高等学校
2	副委員長		根本　泰雄	桜美林大学
3	上席幹事		阿部　國廣	元・川崎市立西有馬小学校
4	幹事		瀧上　豊	関東学園大学
5	幹事		宮嶋　敏	埼玉県立深谷第一高等学校
6	幹事		中井　睦美	大東文化大学
7	幹事		中井　仁	大阪府立茨木工科高等学校
8	幹事		高橋　栄一	東京工業大学
9	顧問		大村　善治	京都大学
10			奥野　誠	東京大学
11			武田　和久	㈱開発設計コンサルタント
12			島田　浩二	東京海洋大学
13			吉本　充宏	北海道大学
14			林　信太郎	秋田大学
15			松浦　執	東海大学

委員会名簿(2010/7/23)

16			廣内　大助	信州大学
17			坪田　幸政	桜美林大学
18			赤井　純治	新潟大学
19			西木　敏夫	目白学園
20			間嶋　隆一	横浜国立大学
21			藤本　光一郎	学芸大学
22			宮下　敦	成蹊中学校・高等学校
23			伊東　明彦	宇都宮大学
24			山野　誠	東京大学
25			坂本　正徳	国学院大学
26			辻村　真貴	筑波大学
27			近藤　昭彦	千葉大学
28			新井　真由美	日本科学未来館
29			三田　肇	福岡工業大学
30			佐溝　信幸	
31			納口　恭明	防災科学技術研究所
32			里村　幹夫	静岡大学
33			松本　剛	琉球大学
34			林田　佐智子	奈良女子大学
35			伊藤　孝	茨城大学
36			加藤　禎夫	埼玉県立小川高等学校
37			南島　正重	東京都立小石川高等学校
38			林　慶一	甲南大学
39			久津間　文隆	埼玉県立川越初雁高校
40			宮岡　邦任	三重大学
41			津野　宏	横浜国立大学
42			町田　忍	京都大学
43			橋本　武志	北海道大学
44			島津　弘	立正大学
45			芝川　明義	大阪府立花園高等学校
46			大谷　具幸	岐阜大学
47			前杢　英明	広島大学
48			滝沢　由美子	帝京大学
49			竹内　裕一	千葉大学
50			海東　達也	都立竹早高校
51			谷　謙二	埼玉大学
52			西城　潔	宮城教育大学
53			山崎　淳司	早稲田大学
54			林　陽生	筑波大学
55			松島　潤	東京大学
56			三ケ田　均	京都大学
57			山田　伸之	福岡教育大学
58			濱田　浩美	千葉大学
59			宮崎　忠國	東京農業大学
60			佐々木　晶	国立天文台
61			縣　秀彦	国立天文台
62			鈴木　文二	埼玉県立春日部女子高等学校
63			小寺　浩二	法政大学
64			山下　敏	埼玉県立熊谷女子高等学校
65			小川　康雄	東京工業大学
教育問題検討委員会　教育課程小委員会				
1	委員長		宮嶋　敏	埼玉県立深谷第一高等学校
2	副委員長		瀧上　豊	関東学園大学
3	副委員長		山下　敏	埼玉県立熊谷女子高等学校
4			河潟　俊吾	横浜国立大学
5			根本　泰雄	桜美林大学
6			野坂　徹	松本大学松商短期大学部
7			畠山　正恒	聖光学院中学高等学校
8			林　信太郎	秋田大学
9			間々田　和彦	筑波大学
10			南島　正重	東京都立小石川高等学校
11			矢島　道子	東京医科歯科大学
12			渡邉　正人	川崎市立川中島小学校
13			能見　郁永	さいたま市立大宮南中学校
	オブザーバー		阿部　國廣	元・川崎市立西有馬小学校
教育問題検討委員会　教員養成等検討小委員会				
1	世話人		中井　睦美	大東文化大学
2	世話人		松島　潤	東京大学

委員会名簿(2010/7/23)

3			秋本　弘章	獨協大学
4			井田　仁康	筑波大学
5			谷　謙二	埼玉大学
6			西城　潔	宮城教育大学
7			里村　幹夫	静岡大学
8			志村　喬	上越教育大学
9			瀧上　豊	関東学園大学
10			根本　泰雄	桜美林大学
11			畠山　正恒	聖光学院中学高等学校
12			林　慶一	甲南大学
13			林　信太郎	秋田大学
14			宮下　芳	茨城大学
15			吉本　充宏	北海道大学
教育問題検討委員会　大学および大学院教育小委員会				
1	委員長		高橋　栄一	東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻
2	副委員長		渡邊　誠一郎	名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻
3	副委員長		磯部　博志	熊本大学大学院理学専攻地球環境科学講座
4	幹事		北里　洋	海洋研究開発機構地球内部変動研究センター
5			見延　庄士郎	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻地球惑星ダイナミクス講座
6			松澤　暢	東北大学
7			小澤　一仁	東京大学 大学院理学系研究科　地球惑星科学専攻
8			藤　浩明	京都大学大学院 理学研究科附属地磁気世界資料解析センター
9			高橋　嘉夫	広島大学 大学院 理学研究科
10			廣岡　俊彦	九州大学大学院　理学研究院 地球惑星科学部門　流体圏・宇宙圏科学講座
11			小室　裕明	島根大学総合理工学部地球資源環境学科
12			廣井　美邦	千葉大学大学院理学研究科地球生命圏科学専攻
13			高澤　栄一	新潟大学理学部地質科学科
14			坂本　正徳	国学院大学
15			松岡　数充	長崎大学環東シナ海海洋環境資源研究センター
16			鳥居　雅之	岡山理科大学
17			林田　明	同志社大学理工学部環境システム学科
18			内田　悦生	早稲田大学大学院創造理工学研究科地球・環境資源理工学専攻
19			和仁　良二	横浜国立大学教育人間科学部地球環境課程
20			畠山　正恒	聖光学院中学高等学校
21			根本　泰雄	桜美林大学自然科学系
22			瀧上　豊	関東学園大学
情報システム委員会				
1	委員長		高木　哲一	産業技術総合研究所
2	副委員長		今西　和俊	産業技術総合研究所
3	副委員長		坂口　有人	海洋研究開発機構
4			中川　茂樹	東京大学
5			西田　究	東京大学
6			前野　深	東京大学
7			金田　平太郎	千葉大学
8			三河内　岳	東京大学
9			宮越　昭暢	産業技術総合研究所
10			齋藤　尚子	東京大学
11			鍵　裕之	東京大学
12			清水　久芳	東京大学
13			中山　大地	首都大学東京
14			柳澤　教雄	産業技術総合研究所
15			熊原　康博	群馬大学
16			財城　真寿美	成蹊大学
17			小寺　浩二	法政大学
18			濱田　浩美	千葉大学
学術出版委員会				
1	委員長		石井　守	情報通信研究機構
2	副委員長		小口　高	東京大学
3			宮本　英昭	東京大学
4		地球生命科学セクション	井龍　康文	名古屋大学
5			村上　隆	東京大学
6			田近　英一	東京大学
7		連合副会長	大谷　栄治	東北大学
8		大気海洋・環境科学セクション	津田　敏隆	京都大学
9		地球人間圏科学セクション	佐竹　健治	東京大学
10		固体地球科学セクション	川勝　均	東京大学
大会運営委員会				
1	委員長	大会運営担当理事	浜野　洋三	海洋研究開発機構

委員会名簿(2010/7/23)

2		大会会場担当	岩上　直幹	東京大学
3		大会企画担当	高橋　幸弘	北海道大学
4			北　和之	茨城大学
5			中江　訓	産業技術総合研究所
		大会運営委員会　情報局		
6	局長		高木　哲一	産業技術総合研究所
7	副局長		坂口　有人	海洋研究開発機構
8	副局長		今西　和俊	産業技術総合研究所
	オブザーバー		中川　茂樹	東京大学
		大会運営委員会　プログラム局		
9	局長	プログラム担当	井出　哲	東京大学
10	副局長		村山　泰啓	情報通信研究機構
11	副局長		中本　泰史	東京工業大学
12			黒澤　正紀	筑波大学
13			渡辺　真人	産業技術総合研究所
14			北　和之	茨城大学
	オブザーバー		中川　茂樹	東京大学
		大会運営委員会　プログラム編成会議		
1		(議長)	浜野　洋三	海洋研究開発機構
2		企画担当理事	中村　正人	宇宙航空研究開発機構
3		大会運営委員会	北　和之	茨城大学
4		プログラム局（委員長）	井出　哲	東京大学
5		（ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ）	中川　茂樹	東京大学
6		（副委員長）	村山　泰啓	情報通信研究機構
7		（副委員長）	中本　泰史	東京工業大学
8		国際学術委員会	遠藤　一佳	東京大学
9		広報普及委員会	原　辰彦	建築研究所
10		教育問題検討委員会	畠山　正恒	聖光学院中学高等学校
11		宇宙惑星セクション	中本　泰史	東京工業大学
12		大気海洋・環境セクション	村山　泰啓	情報通信研究機構
13		地球人間圏セクション	奥村　晃史	広島大学
14		固体地球セクション	木村　純一	海洋研究開発機構
15		地球生命セクション	山岸　明彦	東京薬科大学
		プログラム委員会　＊現在選出中		
1		日本宇宙生物科学会	橋本　博文	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所
2		日本応用地質学会	千木良　雅弘	京都大学防災研究所
3		日本応用地質学会	長田　昌彦	埼玉大学地圏科学研究センター
4		日本海洋学会	川合義美	海洋研究開発機構
5		形の科学会	松岡　篤	新潟大学
6			栗原　敏之	新潟大学
7		日本活断層学会	杉山　雄一	産業技術総合研究所活断層・地震研究センター
8			吉岡　敏和	産業技術総合研究所活断層・地震研究センター
9		日本気象学会	中島　健介	九州大学
10			堀之内　武	北海道大学
11		日本鉱物科学会	角替　敏昭	筑波大学
12			長瀬　敏郎	東北大学総合学術博物館
13		日本国際地図学会	熊木　洋太	専修大学文学部
14			若林　芳樹	首都大学東京
15		日本古生物学会	本山　功	山形大学
16			延原　尊美	静岡大学
17		資源地質学会	加藤　泰浩	東京大学
18			林　謙一郎	筑波大学
19		日本情報地質学会	古宇田　亮一	産業技術総合研究所
20			若林　真由美	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
21		日本水文科学会	辻村　真貴	筑波大学
22			杉田　文	千葉商科大学
23		生態工学会	橋本　博文	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所
24		石油技術協会	鈴木 祐一郎	産業技術総合研究所
25			市江 康高	国際石油開発帝石株式会社
26		日本雪氷学会	竹内　望	千葉大学
27			西村　浩一	名古屋大学
28		日本測地学会	田中　愛幸	東京大学地震研究所
29			太田　雄策	東北大学大学院理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター
30		大気化学研究会	齋藤　尚子	千葉大学環境リモートセンシング研究センター
31			入江　仁士	海洋研究開発機構
32		日本堆積学会	遠藤　徳孝	金沢大学
33			七山　太	産業技術総合研究所
34		日本地下水学会	林 武司	秋田大学

委員会名簿(2010/7/23)

35			今村　聡	大成建設㈱
36		日本地球化学会	下田　玄	産業技術総合研究所地質調査総合センター
37			鈴木勝彦	海洋研究開発機構
38			角皆　潤	北海道大学
39		日本地質学会	七山　太	産業技術総合研究所
40			大坪　誠	産業技術総合研究所
41		日本地熱学会	藤光　康宏	九州大学
42			宮越　昭暢	産業技術総合研究所
43		地理科学学会	前杢　英明	広島大学
44			後藤　秀昭	広島大学
45		日本地理学会	青木　賢人	金沢大学
46			松本　淳	首都大学東京
47		日本地理教育学会	竹内　裕一	千葉大学
48			井田　仁康	筑波大学
49		日本農業気象学会	鳥谷　均	農業環境技術研究所連携推進室
50		日本リモートセンシング学会	近藤　昭彦	千葉大学環境リモートセンシング研究センター
51			桑原　祐史	茨城大学
52		日本惑星科学会	三浦 均	東北大学
53			佐々木　貴教	東京工業大学
国際学術委員会				
1	委員長	国際学術担当理事	石渡　明	東北大学
2	副委員長		加藤　照之	東京大学
3	副委員長		藤田　英輔	防災科学技術研究所
4	連合会長		木村　学	東京大学
5	連合副会長		大谷　栄治	東北大学
6	宇宙惑星科学セクション代表委員		大村　善治	京都大学
7	大気海洋・環境セクション代表委員		多田　隆治	東京大学
8	地球人間環境セクション代表委員		春山　茂子	三重大学
9	固体地球科学セクション代表委員		ウォリス　サイモン	名古屋大学
10	地球生命科学セクション代表委員		遠藤　一佳	東京大学
11	地球生命科学セクション代表委員		小林　憲正	横浜国立大学
12	EGU連携		田島　文子	LMUミュンヘン大学
選挙管理委員会				
1			市原　美恵	東京大学
2			篠原　雅尚	東京大学地
3			砂村　倫成	東京大学
4			高木　征弘	東京大学
5			橘　省吾	東京大学
6			坪本　裕之	首都大学東京
	ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ		吉田　武義	東北大学